

取扱説明書
TR3X-LN01
ロングレンジリーダライタ

発行日 2020 年 12 月 11 日
Ver 1.03

タカヤ株式会社

マニュアル番号：TDR-MNL-LN01-103

はじめに

このたびは、弊社製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

■ 本書の見方

本製品を安全に正しくご使用いただくため、本書をよく読み、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

■ 本書内で参照している説明書、および使用ツール

本書内では、下記の手順書や説明書を参照し、各種ツールを使用しています。
ご使用前に、下記 URL よりダウンロードされることをお勧めいたします。

□ 参照する手順書および説明書

- TR3X シリーズ通信プロトコル説明書
(上位コマンド制御を行うための通信仕様を記載しています)
- カスタムコマンド通信プロトコル説明書
(スルーコマンド機能の使用方法、各種 RF タグのコマンド仕様を記載しています)
- TR3RW マネージャ取扱説明書
(TR3RWManager の各種機能の使用方法を説明します)
- LAN インターフェース設定ツール IPSet2 取扱説明書
(LAN 設定ツール IPSet2 の使用方法を説明します)

□ ユーティリティツール

- TR3RWManager ※Ver3.40 以降をご使用ください
(本製品の動作設定の変更や各種コマンド、動作モードによる動作確認ができます)
- IPSet2
(LAN インターフェース設定の変更ができます)

□ ダウンロード先

各種通信プロトコル説明書

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_list/#11

TR3RWManager、LAN インターフェース設定ツール IPSet2、およびその取扱説明書

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_utility/

法規・対応規格について

電波法					
本製品は、日本の電波法で定められている型式指定の認証を受けたリーダライタモジュールを組み込んでいます。したがって、日本国内での高周波利用設備の設置許可申請は不要となります。ただし、弊社が認めない機器構成の組み合わせで使用したり、改造して不法電波を放射したりすると、電波法違反となり処罰されますのでご注意ください。 <日本国内規格> 規格番号 : ARIB STD-T82 標準規格名 : 誘導式読み書き通信設備 (ワイヤレスカードシステム等) 型式指定番号 : 第FC-16002号 (型式名 : TR3X-L202)					
動作確認済タグ					
本製品は、国際標準規格 ISO/IEC15693、ISO/IEC18000-3 (Model) に対応した製品です。下表に記載の RF タグ、IC カードをサポートしています。					
<table><tr><th>エアインターフェース規格</th><th>動作確認済タグ</th></tr><tr><td>ISO/IEC15693 ISO/IEC18000-3 (Model)</td><td> • Tag-it HF-I (Plus/Standard/Pro) • ICODE SLI (SLI/SLI-S/SLI-L/SLIX/SLIX-S/SLIX2) • my-d (SRF55V10P/SRF55V02P/SRF55V01P my-d light) • MB89R118C/MB89R119B/MB89R112A/B • M24LR04E-R/M24LR16E-R/M24LR64E-R/LRIS64K </td></tr></table>	エアインターフェース規格	動作確認済タグ	ISO/IEC15693 ISO/IEC18000-3 (Model)	• Tag-it HF-I (Plus/Standard/Pro) • ICODE SLI (SLI/SLI-S/SLI-L/SLIX/SLIX-S/SLIX2) • my-d (SRF55V10P/SRF55V02P/SRF55V01P my-d light) • MB89R118C/MB89R119B/MB89R112A/B • M24LR04E-R/M24LR16E-R/M24LR64E-R/LRIS64K	
エアインターフェース規格	動作確認済タグ				
ISO/IEC15693 ISO/IEC18000-3 (Model)	• Tag-it HF-I (Plus/Standard/Pro) • ICODE SLI (SLI/SLI-S/SLI-L/SLIX/SLIX-S/SLIX2) • my-d (SRF55V10P/SRF55V02P/SRF55V01P my-d light) • MB89R118C/MB89R119B/MB89R112A/B • M24LR04E-R/M24LR16E-R/M24LR64E-R/LRIS64K				
欧州RoHS指令					
欧州RoHS指令 (2002/95/EC) 対応 Restriction of Hazardous Substances (危険物質に関する制御)					
電気用品安全法					
電気用品安全法に対応したACアダプタを製品に付属しています。 法令番号 : 昭和三十六年十一月十六日法律第二百三十四号					
安全性					
本製品は高度な安全性を必要とする用途に向けて企画、設計されていません。人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途でご使用の場合は、本製品の定格、性能に対し余裕をもった使い方や、フェールセーフなどの十分な安全対策を講じてください。					
廃棄					
本製品を廃棄する際は、産業廃棄物として処理してください。					

ご注意

- ・改良のため、お断りなく仕様変更する可能性がありますのであらかじめ御了承ください。
- ・本書の文章の一部あるいは全部を、無断でコピーしないでください。
- ・本書に記載した会社名・商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標になります。Tag-it HF-I シリーズは Texas Instruments 社、my-d シリーズは Infineon Technologies 社、ICODE SLI シリーズは NXP Semiconductors 社、MB89R シリーズは富士通セミコンダクター社、M24LR シリーズは STMicroelectronics 社の商標、または登録商標です。
また、本書に記載した会社名・商品名などは、各社の商標または登録商標になります。

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客さまや他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解し、必ずお守りください。

記号表示について

項目	禁止事項	注意事項	留意事項
記号			
意味	してはいけない行為を表しています。	気をつけなければならない内容を示しています。	必ずしなければならない行為を表しています。
例	 分解禁止	 感電注意	 電源プラグをコンセントから抜くこと



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。また、同様に重大な物的損害をもたらす恐れがあります。

使用する時は・・・



- 本体およびケーブルの分解、修理、改造は絶対に行わないでください。感電・火災・ケガの恐れがあります。



- 本製品は電波を使用したRFID機器のリーダライタです。そのため、使用する用途・場所によっては、医用機器に影響を与える恐れがあります。RFID機器の医用機器への影響については、(社)日本自動認識システム協会より「RFID機器運用ガイドライン」が発行されています。医用機器への影響を少なくするために、ご使用につきましては、以下のことを厳守されるようお願いいたします。
 - 植込み型医用機器(心臓ペースメーカー等)装着者は、装着部位をRFID機器のアンテナ部周囲22cm以内に近づかないようにしてください。医用機器に影響を与える恐れがあります。
 - 運用ガイドライン、調査研究報告書では、医用機器装着者に対してRFID機器であることを明示するため、機器に「RFIDステッカ」を貼り付けることを推奨しています。本製品と接続するアンテナは、「RFIDステッカ」を貼り付けているか、同封して出荷しています。アンテナが装置などに組み込まれる場合、RFID機器の本体外部からよく見える位置に貼り付けてください。



本ステッカは、医療機器装着者に対し、RFIDの電波が出ていることを明示するためのものです。

アンテナが装置等に組み込まれる場合、RFID機器の本体外部からよく見える位置(アンテナ付近)に貼り付けることを推奨しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、あるいは物的損害を受けたりする恐れがあります。

設置時や使用時は・・・



- 本製品を、以下のような場所での使用や保管をしないでください。
 - ・ 直射日光(紫外線)の当たる場所
 - ・ 水、油、化学薬品の飛沫がある場所
 - ・ 粉塵、腐食性ガス、可燃性ガス、爆発性ガス、塩分がある場所
 - ・ 高温多湿な場所
 - ・ 振動や衝撃が多い場所
 - ・ 強力な磁力線や衝撃電圧を発生する装置がある場所
 - ・ ストーブなどの熱源から、直接加熱される場所
 - ・ 結露する場所
 - ・ 周囲が金属で覆われている場所
 - リーダライタには指定された専用のアンテナ、アンテナケーブル以外の機器の接続はできません。接続されると、電波法違反となりますのでご注意ください。
 - 帯電したものをアンテナや信号端子のコネクタに近づけたり接触させたりしないでください。
 - 本製品のアンテナ接続コネクタをショート、もしくはオープン状態、あるいは指定されたアンテナ、終端器以外の機器を接続して動作させないでください。本体内部の部品が破損する恐れがあります。
 - 不安定な場所への取り付けは避けてください。万一転倒した場合は、危険であり、破損する恐れがあります。
 - アンテナから放射される電磁波により、アンテナ近傍に設置された周囲機器の動作に影響を与える場合があります。
発生事例として、以下の製品が挙げられます。
 - ・ キーボード、マウス、アクティブスピーカ等のパソコン周辺機器
例) 入力用装置による誤入力、スピーカからのノイズ音発生 など
 - ・ 画像取込・伝送機器等のAV機器
例) AV機器の画面にノイズが映り込む など
 - ・ おサイフケータイなどアンテナを内蔵する携帯用端末
例) 携帯電話のランプ表示、バイブレーション等が誤動作する。
(不測のデータ読み書きは発生しません)
- リーダライタは周囲機器から、20～30cm程度離してご使用ください。
リーダライタ側の仕様、周囲機器の仕様（耐ノイズ性など）によっては影響度合いが異なるため、一概には判断しかねますので、設置環境での事前検証を推奨します。
設置時の注意事項については本書「4.1 設置」を参照ください。



- 濡れた手で機器を使用しないでください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、あるいは物的損害を受けたりする恐れがあります。

設置時や使用時は・・・



- 本製品の設置工事、除去工事の時は、必ず電源を切った状態で行ってください。
- 他のシステムの影響により正常に動作しない可能性があります。そのため、事前に下記の項目を必ず確認してください。また、設置作業はシステムの電源を落とした状態で行ってください。
 - ・ 13.56MHz付近の電波を発生する機器が近くにないこと
 - ・ スピーカや反響物が近くにないこと
 - ・ 周囲にノイズを発生する機器が近くにないこと（インバータ、モータ、プラズマディスプレイなど）
- リーダライタとRFタグの交信距離は、下記の使用条件により変化する可能性があります。
 - ・ RFタグを取り付ける対象物
 - ・ RFタグの形状・大きさ
 - ・ アンテナまたはRFタグの付近に金属物等の導電性物質がある場合
- 機器が故障した、水に濡らした、異臭がする、煙や火花が出たなど異常があった場合は、ただちに使用を中止し、必ず弊社または販売代理店に連絡してください。

輸送する時は・・・



- 専用の梱包箱を使用してください。
- 水がかからないようにしてください。
- 過度の振動や衝撃を与えたり、落下させたりしないようにしてください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、あるいは物的損害を受けたりする恐れがあります。

電源のプラグやケーブル類は・・・



- 束ねないでください。
- 可動部に固定しないでください。
- 傷つけないでください。
- ストーブなどの熱器具に接触させないでください。
- プラグを抜く時、コードを持って抜かないでください。
- コードやプラグが傷ついていたり、コンセントの差し込みが緩かったりする時は使用しないでください。
- コード上に、物を置いたりして圧迫させないでください。
- コンセントや配線器具の定格を超える使い方(たこ足配線など)はしないでください。



- 濡れた手で抜き差ししないでください。また、電源を入れた状態で端子には触れないでください。感電する危険性があります。



- 長期間ご使用にならない時は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



- 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
- 電源プラグは、根元まで確実に差し込んでください。
- お手入れの際は、電源プラグを抜いてください。
- 定期的に電源プラグを乾いた布で拭いてください。電源プラグにほこりがたまり、湿気などで絶縁不良状態となり、火災の原因となります。

お手入れの時は・・・



- お手入れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。乾いた布で強くこすると、摩擦により帯電し空気中に浮遊するゴミが付着しやすくなるため、キズ・汚れの原因となります。
- 水をかけないでください。またクレンザー、シンナー、ベンジン、アルコール、灯油、殺虫剤、消臭スプレーなどをかけないでください。ケースの表面が侵され、ひびや変色・変質が起こる可能性があります。

目次

第 1 章	梱包内容	1
1.1	梱包物一覧	2
1.2	お客様でご準備いただくもの	3
第 2 章	概要	4
2.1	特徴	5
2.2	システム構成	6
第 3 章	各部の名称と機能	7
3.1	TR3X-LN01	8
第 4 章	設置と接続	9
4.1	設置	10
4.1.1	据え置く	11
4.1.2	ネジ留めして設置する	11
4.1.3	EEPROM 設定を変更する（複数台を近接する場合）	12
4.2	接続	14
4.2.1	TR3X-LN01	14
第 5 章	動作確認	16
5.1	動作モード	17
5.2	制御方法	18
5.3	ユーティリティツールを使用する	19
5.3.1	インストール	19
5.3.2	動作確認 (TCP/IP)	20
5.3.3	RF タグのシステム領域・ユーザ領域を確認する	27
5.3.4	各種コマンドのレスポンスを確認する	28
5.3.5	各種コマンドの処理時間を確認する	28
第 6 章	仕様	29
6.1	製品仕様	30
6.1.1	TR3X-LN01	30
6.2	付属品仕様	35
6.2.1	AC アダプタ (型番 : TR3X-PWR-18V-1)	35
6.2.2	本体固定用ブラケット (型番 : TR3X-BRKT1)	36
6.3	EEPROM 設定一覧	37
6.3.1	EEPROM 詳細設定	37
6.3.2	RF タグ動作モード	38
6.3.3	リーダーライタ動作モード	39
6.3.4	汎用ポート設定	40
6.3.5	アンテナ切替設定	42
6.3.6	各種設定	43
第 7 章	LAN I/F 仕様 (TR3X-LN01)	45
7.1	LAN インターフェース設定一覧	46
7.2	LAN インターフェース設定の確認／変更	47
7.2.1	事前準備	47
7.2.2	設定確認・変更	48
7.2.3	通信スピード (Baud Rate) 変更	53

7.2.4	初期化	54
7.3	LAN 設定パラメータ (IPSet2)	55
7.3.1	Active Connect (通信方式の選択)	55
7.3.2	TCP Keepalive (接続有効確認)	56
7.3.3	Default Gateway (ルータを経由した通信)	56
7.3.4	Packing (データパケットの送信タイミング)	57
7.4	トラブルシューティング	58
7.4.1	リーダライタの IP アドレスがわからなくなった	58
7.4.2	リーダライタとの通信ができない	63
7.4.3	リーダライタからのコマンドのレスポンスがうまく受け取れない	66
第 8 章	保守と点検	67
8.1	保守と点検	68
8.2	保証とサービス	69
修理依頼票		70
変更履歴		71

第1章 梱包内容

本製品のセット内容について確認してください。
また、使用する際に必要になるものを確認してください。

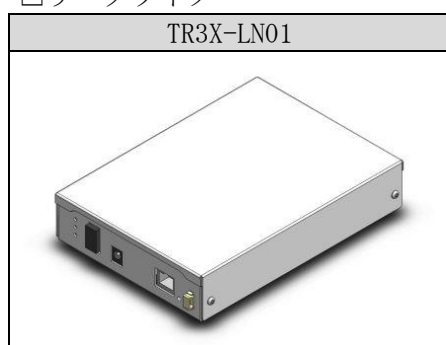
1.1 梱包物一覧

TR3X シリーズの梱包内容を以下に示します。

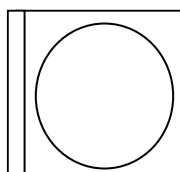
梱包・出荷には細心の注意を払っておりますが、万一欠品、初期不良の場合は、ご購入先窓口までお問合せいただきますようお願い申し上げます。

品名	数量
リーダライタ	1
AC アダプタ	1
CD-ROM	1
本体固定用ブラケット	2

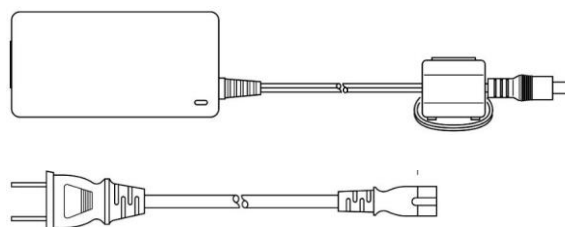
□リーダライタ



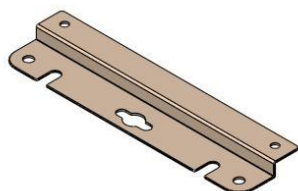
□CD-ROM(型番：CDROM-TR3MNL)



□AC アダプタ(型番：TR3X-PWR-18V-1)



□本体固定用ブラケット(型番：TR3X-BRKT1)



1.2 お客様でご準備いただくもの

リーダライタのご使用にあたって、以下のものが必要になります。

- 上位機器（PC、PLC など）
- 上位機器接続用ケーブル

機器構成により以下のケーブルが必要です。

接続方式	ケーブル線種
上位機器と直接接続する	LAN クロスケーブル 1 本
ハブを経由して接続する	LAN ストレートケーブル 2 本

第2章 概要

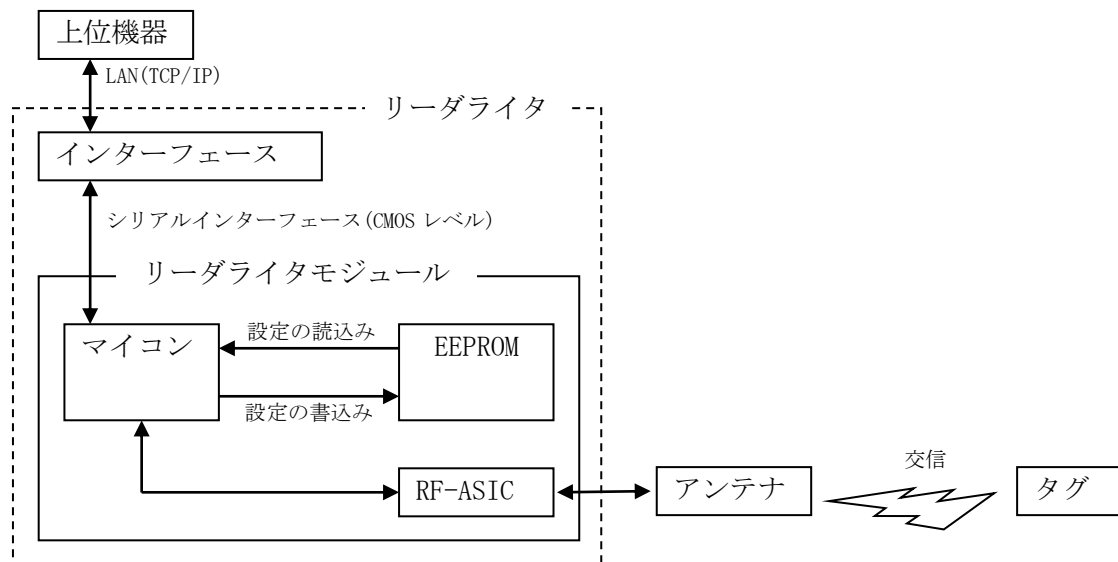
本章では、本製品の概要とシステムの構成例について説明します。

2.1 特徴

本製品は 13.56MHz の周波数を使用し、非接触で RF タグのデータの読み書きができる電磁誘導方式の RFID リーダライタです。以下の規格に対応した RF タグと交信することができます。

- ・ ISO/IEC15693、ISO/IEC18000-3 (Mode1)

物品管理、搬送システム、入退室管理、物流管理など、さまざまな用途に利用できます。



- 国際標準規格 ISO/IEC15693、ISO/IEC18000-3 (Mode1) に準拠し、標準コマンドおよび複数のオプションコマンドに対応しています。
RF タグ独自のカスタムコマンドについてはカスタムコマンド通信プロトコル説明書を参照ください。
- 上位機器との接続は TR3X-LDU01 (RS-232C, USB)、TR3X-LN01 (TCP/IP) の各種 I/F を用意
- 全機種共通の通信プロトコル/SDK (ソフトウェア開発キット)
 - 上位機器との通信仕様は、全機種共通の通信プロトコル
ISO/IEC15693 機能は弊社旧来品と互換。旧来品から本製品へのリプレースが容易
 - アプリケーション開発を容易にする SDK (DLL/サンプルプログラム) を用意
- 上位機器の負担を軽くする便利な機能を搭載
ISO コマンド以外にもいくつかの便利な機能を用意 (自動読み取りモードなど)
例) 連続インベントリモード (検知した RF タグの UID を上位機器に自動送信)
RDLOOP モード (検知した RF タグの UID およびユーザデータを上位機器に自動送信)
詳細は「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照してください。
- 環境に配慮
全機種 欧州 RoHS 指令 (2002/95/EC) 対応

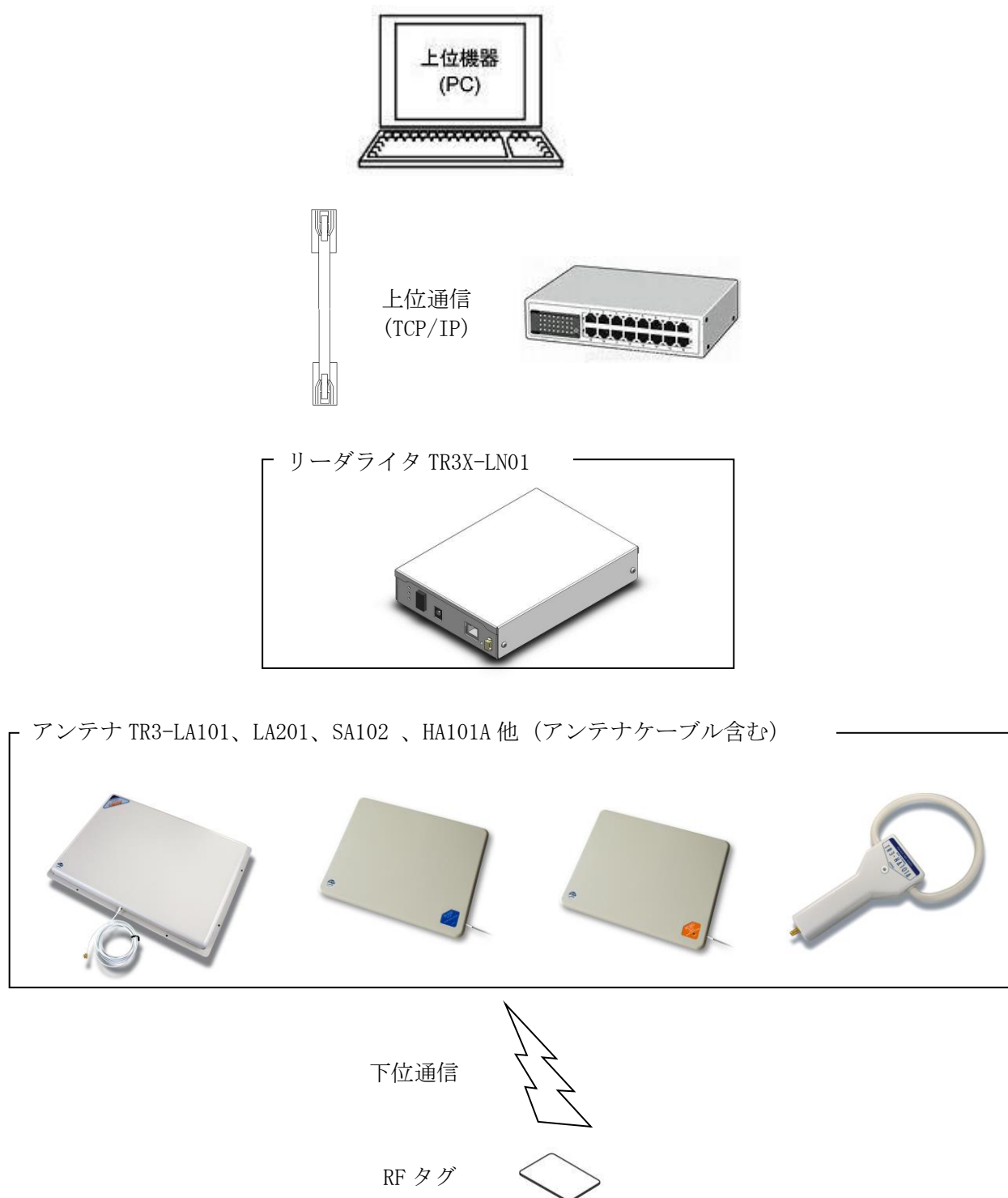
2.2 システム構成

本製品（TR3X-LN01）は、上位機器（PC、PLC 等）との上位通信と、RF タグとの下位通信を行います。

<ご注意>

指定のアンテナおよびアンテナケーブル以外は使用しないでください。
指定品以外のアンテナおよびアンテナケーブルを使用すると、電波法違反となりますので、ご注意ください。

構成例

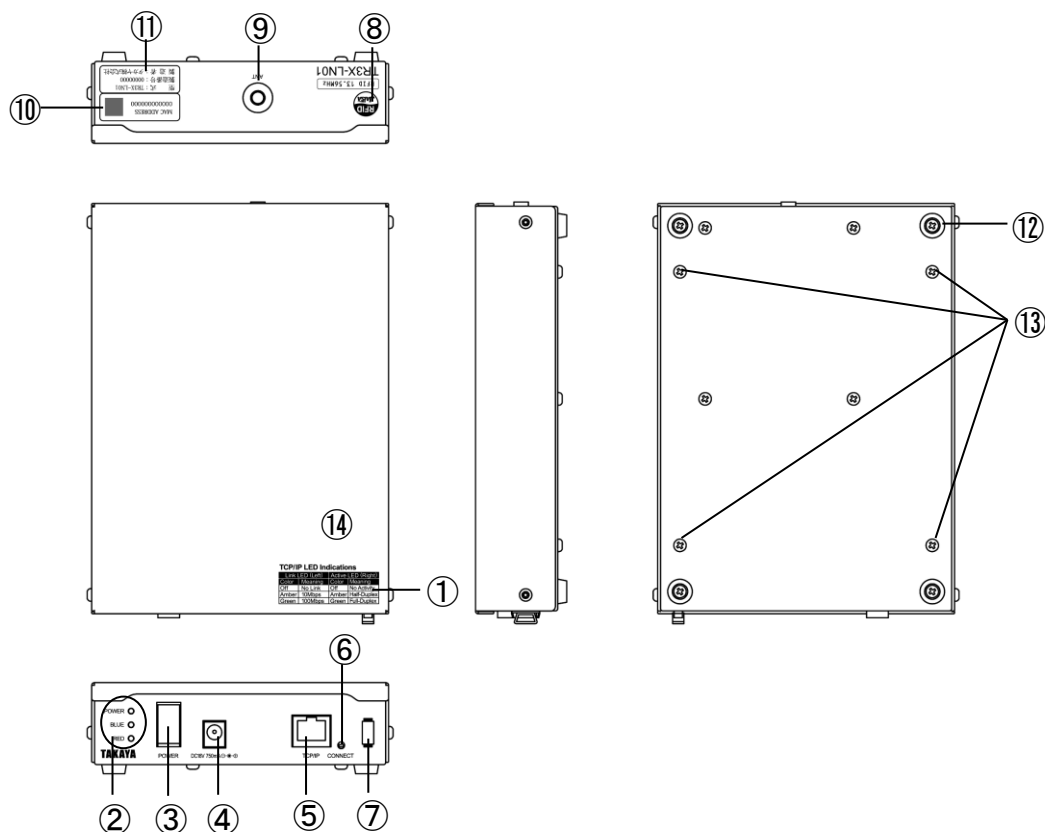


第3章 各部の名称と機能

本章では、本製品の各部の名称と機能について説明します。

3.1 TR3X-LN01

TR3X-LN01 の各部の名称と機能について説明します。



No	名称	機能説明
①	LAN コネクタ LED 説明	LAN コネクタ搭載の LED 仕様の説明を示します。
②	動作表示 LED (赤／青／緑)	電源投入時、POWER (LED 緑) が点灯します。 LED (青／赤) はコマンド制御が可能です。
③	電源スイッチ	電源供給の ON/OFF を行います。
④	DC ジャック	DC+18V 入力です。付属の AC アダプタを使用してください。
⑤	LAN 接続用コネクタ	LAN ケーブルと接続します。※LED 仕様は①参照
⑥	LED (CONNECT)	接続状態 (接続時：緑点灯、未接続時：消灯) を示します。 但し、電源投入直後は、約 5 秒間点灯します。
⑦	ケーブルフック	AC アダプタプラグの抜け防止用フックです。
⑧	RFID ステッカ	医療機器装着者に対し、RFID の電波が出ていることを明示するためのものです。
⑨	アンテナ接続用コネクタ	アンテナケーブルを接続します。
⑩	MAC アドレス	MAC アドレスを表示します。
⑪	銘板	製造番号は、8 桁のシリアル番号となります。 型 式：TR3X-LN01 製造番号：16000001 製 造 者：タカヤ株式会社 型式名 製造番号：***** 8桁のシリアル番号
⑫	ゴム足	四方 4 か所にあります。
⑬	ブラケット固定用ネジ	本体に留めているネジ (4 か所) を使用して取付板を固定します。
⑭	ブザー	設定に合わせて鳴動します。

第4章 設置と接続

本章では、本製品のリーダライタの設置と接続について説明します。

4.1 設置

設置の前に



設置に際しては、本書冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みください。また、下記設置環境にご注意いただき、使用してください。

【取り付け条件・環境に関する注意事項】

- リーダライタの設置は可動、あるいは振動する場所は避けてください。設置時のケースの向きについては特に制限はありませんが、傾斜設置などは転倒した場合は危険であり、破損する恐れがあるため、平坦な場所に設置するか、付属のブラケットを使用して固定してください。
- アンテナの読み取り面近傍に金属が存在する場合、性能に影響する場合がありますので、ご注意ください。また、金属のループ、フレーム等にも影響を受けます。
- 電源ラインあるいは周囲環境から受けるノイズにより、性能に影響する場合があります。ノイズ源としては、コンベア等のインバータ電源、モータ類等が考えられます。上位通信用ケーブル、電源ケーブルなどへのノイズ対策が必要となる場合があります。
- 周囲環境の静電気ノイズが通信不良・性能低下の原因になる場合があります。使用者の帯電防止、放電環境の整備などの対策が必要となります。
- コマンド[IS015693要求フラグでSingle Subcarrier (ASK) 指定]を使用する際、一般的に、ASK変調はノイズ特性が弱い為、周囲環境（ノイズ環境）によっては信号検出（レスポンス）が不安定となる場合がありますのでご注意ください。
例) Fastリード系、Fastライト系コマンド

■「周囲環境から」の影響を抑えるには・・・

TR3シリーズ導入ガイド、関連技術資料を参照ください。

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_technic/

- アンテナから放射される電磁波により、アンテナ近傍に設置された周囲機器の動作に影響を与える場合があります。

発生事例として、以下の製品が挙げられます。

- ・ キーボード、マウス、アクティブスピーカ等のパソコン周辺機器
例) 入力用装置による誤入力、スピーカからのノイズ音発生 など
- ・ 画像取込・伝送機器等のAV機器
例) AV機器の画面にノイズが映り込む など
- ・ おサイフケータイなどアンテナを内蔵する携帯用端末
例) 携帯電話のランプ表示、バイブレーション等が誤動作する。

(不測のデータ読み書きは発生しません)

リーダライタ（アンテナ）は周囲機器から、20～30cm程度離してご使用ください。リーダライタ側の仕様、周囲機器の仕様（耐ノイズ性など）によっては影響度合いが異なるため、一概には判断しかねますので、設置環境での事前検証を推奨します。

■「周囲環境へ」の影響を抑えるには・・・

キャリア（搬送波）制御の設定変更で、電波障害が回避できる場合があります。

[RF送信信号設定]

①常時ON

②起動時OFF（コマンド受付以降ON）※出荷時設定

③コマンド実行時以外常時OFF

「③コマンド実行時以外常時OFF」に変更することで、アンテナから発生する電磁波が間欠動作となり、周囲環境への影響を軽減します。

上記以外にも実環境に見合う対策をご紹介できる場合がありますので、対策でお困り、あるいは、ご不明な点など、弊社 (rfid@takaya.co.jp) までお問い合わせください。

4.1.1 据え置く

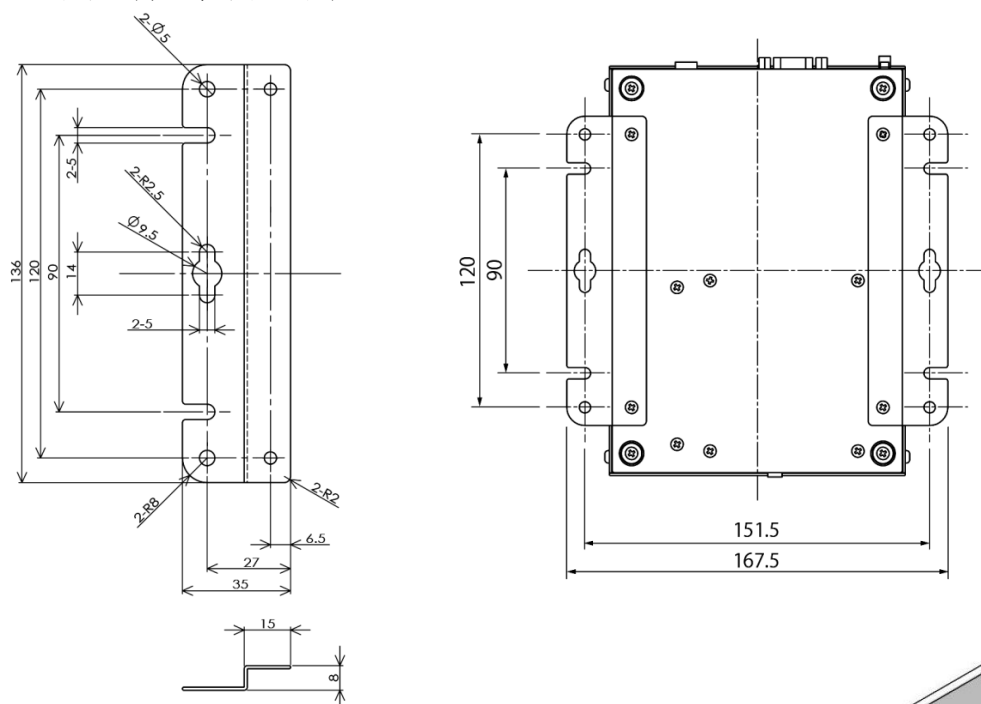
前述の取り付け条件・環境に関する注意事項を参考に、リーダライタを設置してください。



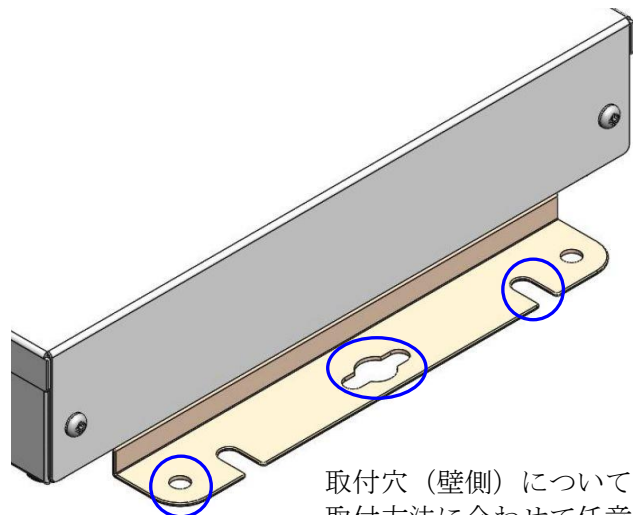
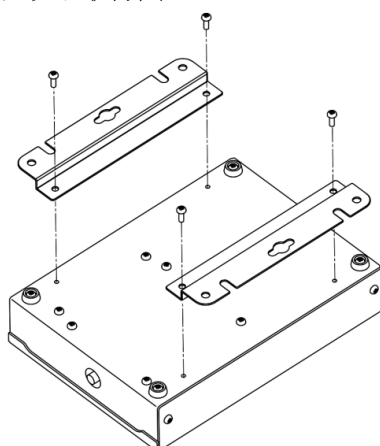
4.1.2 ネジ留めして設置する

本体固定用ブラケットを利用する事で、壁面などへの固定が可能です。
 ブラケットの本体への固定は本体に取り付けてあるネジをご使用ください。
 壁面などへの取り付け用ネジは付属しておりません。壁の構造に応じて適切な市販品をご使用いただき、壁面にしっかりと固定してください。

<ブラケット寸法図（単品、取付寸法）>



<ブラケット取付図>



取付穴（壁側）については
取付方法に合わせて任意の穴を
ご使用ください。

4.1.3 EEPROM 設定を変更する（複数台を近接する場合）

複数台のリーダライタを使用し、接続されたアンテナが近接して設置される場合に、各アンテナが同時に給電される可能性がある場合は、以下の事象が発生する可能性がありますので、対策を実施することを推奨いたします。

【事象】

一方のアンテナにおいて、他方のアンテナ上にある RF タグからの応答信号を受信し、タグデータを読み取ってしまう。

【対策】

近接したアンテナ同士では、異なるサブキャリアの方式を使用するように、各リーダライタの EEPROM の「RF タグ動作モード」の設定を変更する。

例) 一方のアンテナ（リーダライタ）で「デュアルサブキャリア (FSK 変調)」を使用している場合、他方のアンテナ（リーダライタ）では「シングルサブキャリア (ASK 変調)」を使用するように設定します。

サブキャリアの設定の確認および変更は、以下の①、②のいずれかの方法で実施してください。

① 上位からコマンドを実行する

「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照ください。

「RF タグ動作モードの読み取り」、「RF タグ動作モードの書き込み」コマンドを実行し、設定値の確認、変更を行うことができます。

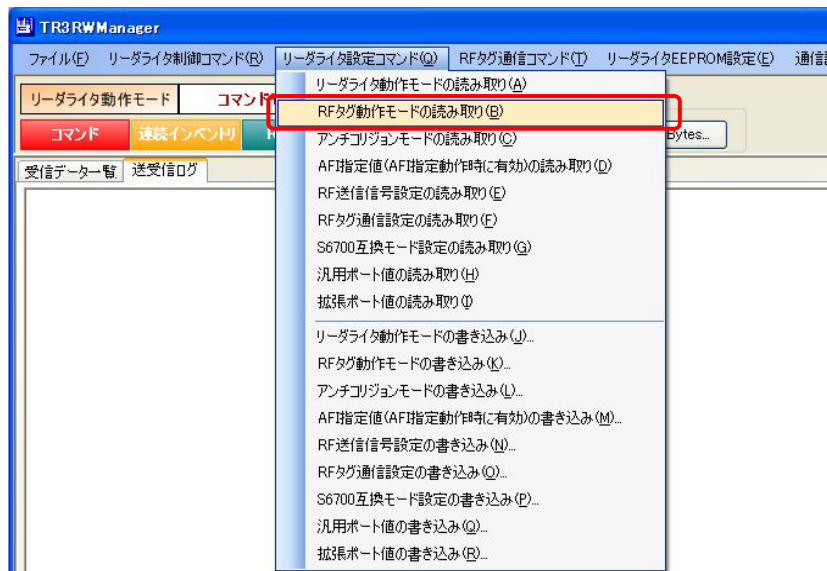
② ユーティリティツール（TR3RWManger）から設定する

※ TR3RWManger のインストール手順および簡易的な操作方法については、後掲の「5.3 ユーティリティツールを使用する」を参照ください。

➤ サブキャリアの設定の確認方法

リーダライタの動作モードをコマンドモードに設定し、メニューから

「リーダライタ設定コマンド」→「RF タグ動作モードの読み取り」を実行します。

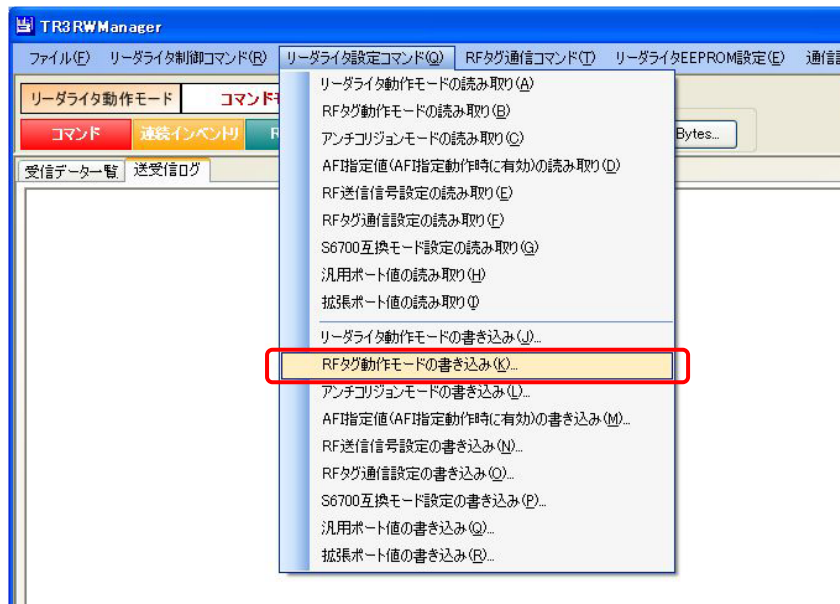


「送受信ログ」画面にて、現在のサブキャリアの設定を確認できます。

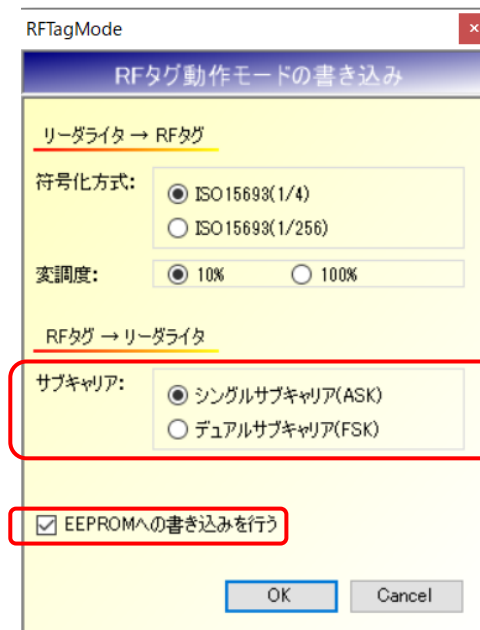
受信データ一覧	送受信ログ
11/26 14:47:07.689	[cmt] /* RFタグ動作モードの読み取り */
11/26 14:47:07.689	[send] 02 00 4F 01 09 03 5E 00
11/26 14:47:07.700	[recv] 02 00 30 02 09 44 03 84 00
11/26 14:47:07.700	[cmt] 符号化方式 : ISO15693 1/4
11/26 14:47:07.700	[cmt] 変調度 : 10%
11/26 14:47:07.700	[cmt] サブキャリア : <u>デュアルサブキャリア (FSK)</u>

➤ サブキャリアの設定の変更方法

リーダライタの動作モードをコマンドモードに設定し、メニューから「リーダライタ設定コマンド」→「RF タグ動作モードの書き込み」を実行します。



表示された画面「RF TagMode」にて、変更したいサブキャリアの設定を選択します。「EEPROM への書き込みを行う」(※ 電源再起動後も設定を保持)にチェックを入れて「OK」ボタンをクリックします。



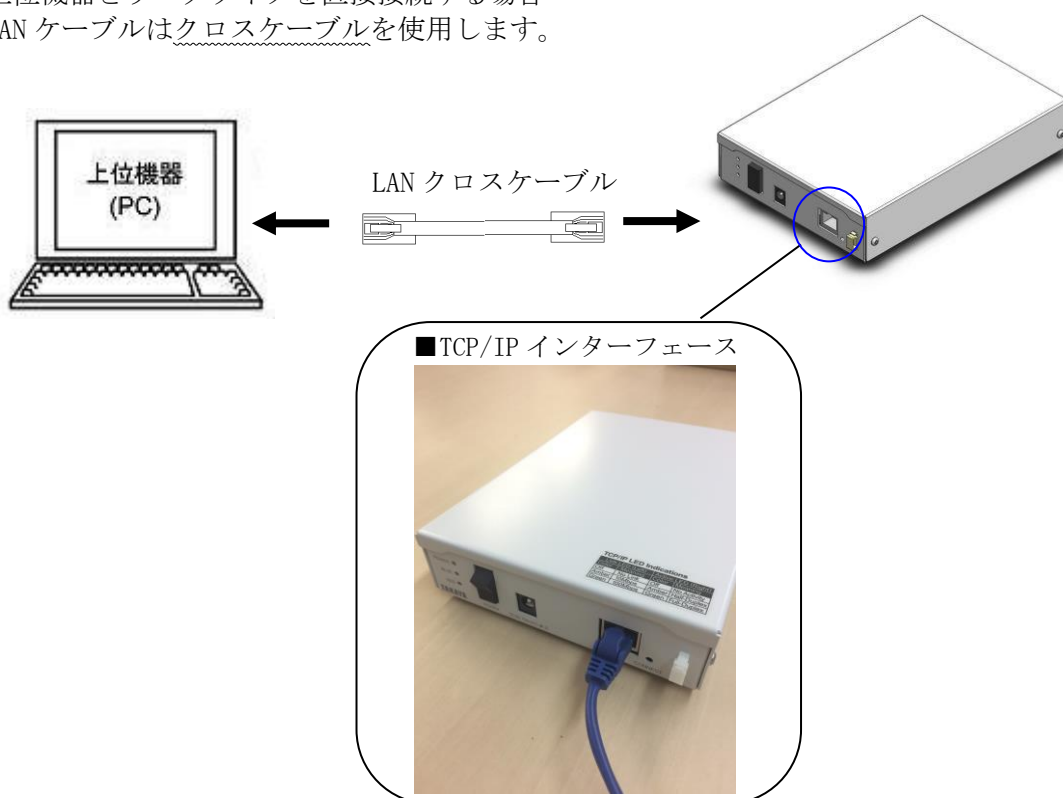
4.2 接続

本製品と上位機器との接続について説明します。

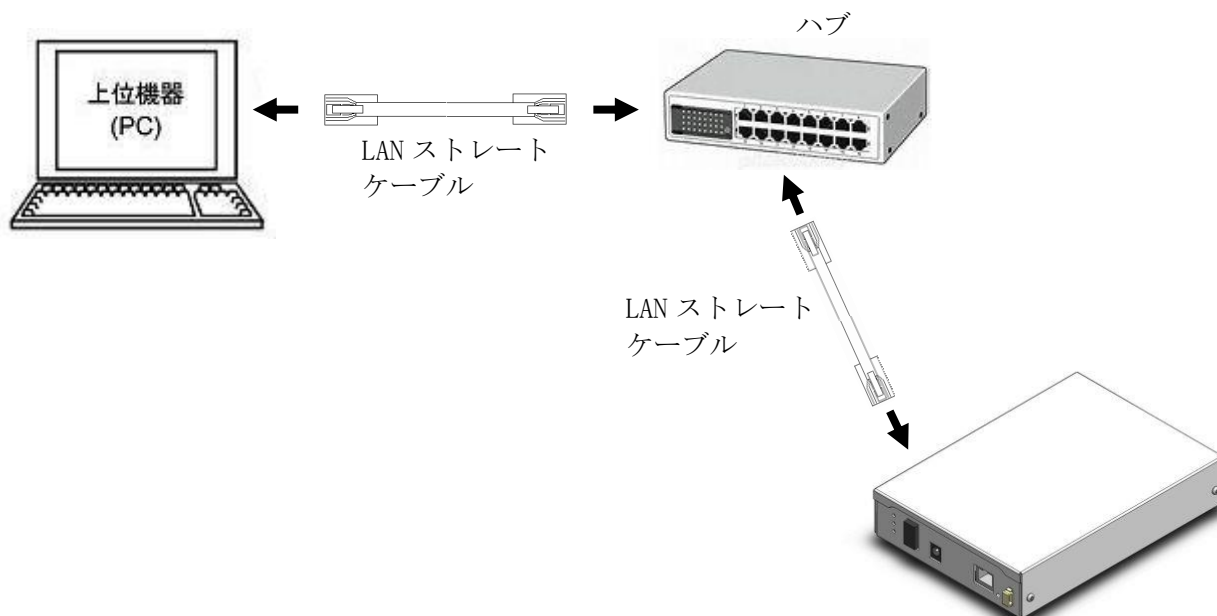
4.2.1 TR3X-LN01

上位機器と直接接続する場合、ハブ経由で接続する場合について説明します。
LAN ケーブルはお客様にてご準備ください。

- 上位機器とリーダライタを直接接続する場合
LAN ケーブルはクロスケーブルを使用します。



- 上位機器とリーダライタをハブ経由で接続する場合
LAN ケーブルはストレートケーブルを使用します。

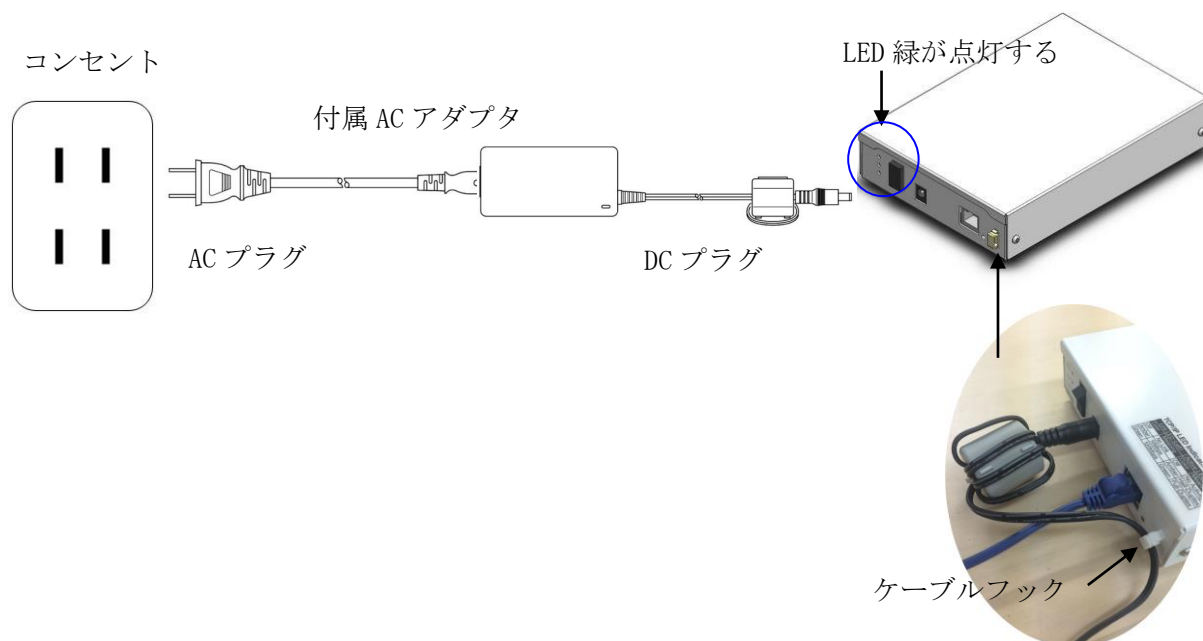


次に付属の AC アダプタを使用し、給電します。

AC アダプタの DC プラグをリーダライタに接続し、AC プラグをコンセントに接続します。

DC プラグの抜け防止のため、プラグ挿入後、ケーブル部分をケーブルフックに留めてください。

電源が入るとリーダライタの LED 緑が点灯し、「ピー」というブザー音が鳴ります。



第5章 動作確認

本章では、本製品の動作確認の方法について説明します。

5.1 動作モード

RF タグの基本的な動作として、リーダライタから送信されたコマンドを RF タグが受信した後、RF タグからリーダライタへそのコマンドに対する応答が返されます。(Reader Talk First) そのため、リーダライタからコマンドが送信されない限り、RF タグからデータ（応答）を返信することはありません。

しかし、TR3 シリーズでは上位機器から制御コマンドを送ることなく、RF タグのデータを読み取ることが可能な各種動作モードを準備しています。

コマンドモード以外の動作モードでは、上位機器とは非同期でリーダライタから RF タグの読み取りコマンドを送信します。RF タグのデータを受信すると、そのデータを上位機器に返します。

これらの動作モードは TR3 (TR3X) シリーズ独自のモードですが、リーダライタから RF タグに送信するコマンドは ISO15693 準拠のコマンドです。

詳細については、「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照してください。

動作モードの概要は下表の通りです。

動作モード	概要	備考
コマンドモード	上位機器からのコマンドに従い処理を実行するモードです。 ISO15693 関係のコマンドを実行する場合はこのモードを使用します。	
連続インベントリモード	RF タグの UID を読み取るモードです。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード
RDL00P モード	RF タグの UID と指定したエリアのユーザデータを読み取るモードです。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード
オートスキャンモード	SimpleWrite コマンドで書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを読み取るモードです。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード
トリガーモード	外部からのトリガー信号が有効な間、オートスキャンモードと同じ動作を行います。	SimpleWrite コマンドで書き込まれたデータのみ受信可能
ポーリングモード	上位機器から指定された時間、オートスキャンモードと同じ動作を行います。	
EAS モード ※1	特定の AFI 値を持つ RF タグを検知するモードです。 不正持ち出し防止などの用途で使します。 RF タグの UID やユーザデータを読み取ることはできません。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード 検知する RF タグの AFI 値は事前にリーダライタに登録する必要あり

※1 本機種では、EAS モードは未サポートです。

5.2 制御方法

下表は本製品の制御方法一覧になります。

次節にてユーティリティツール「TR3RWManager」のインストール手順および簡易的な動作確認方法について説明します。

用途	手段	内容
動作モード設定 動作確認	ユーティリティ ツール	TR3RWManager(※1) リーダライタを動作させる詳細設定と動作確認ができます。
ソフトを開発する	通信プロトコル 説明書	通信プロトコル説明書を参照し、上位アプリケーション上で リーダライタの制御コマンドを実装します。 「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書(※2)」を 参照ください。
	SDK	ソフトウェア開発用キットです。 詳細はカタログを参照ください。(※3)

※1：ユーティリティツールの「TR3RWManager」「TR3RW マネージャ取扱説明書」は、下記 URL よりダウンロードできます。

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_utility/

※2：「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」は、下記 URL よりダウンロードできます。

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_list/#11

※3：SDK は下記 URL (カタログ) を参照ください。

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_list/#sdk

5.3 ユーティリティツールを使用する

ユーティリティツール (TR3RWManager) のインストール手順および簡易的な動作確認方法について説明します。

操作方法は、使用する通信方式 (I/F) により異なりますので、インストール後は下表の参照先をご覧ください。

通信形態	リーダーライタ	参照先
TCP/IP 通信	TR3X-LN01	5.3.2 動作確認 (TCP/IP)

動作確認は、連続インベントリモードで行います。

RF タグ (ISO/IEC15693) の交信距離などを確認することができます。

5.3.1 インストール

本ソフトウェア (TR3RWManager, Ver3.30 以降) のインストーラをご準備ください。

インストーラは、弊社製品付属の CD-ROM に収録されています。また、最新版は弊社 WEB サイトからダウンロードすることが可能です。

インストール手順は、「TR3RWManager 取扱説明書」を参照ください。

「TR3RWManager」「TR3RWManager 取扱説明書」は、以下の WEB サイトからダウンロードできます。

[URL] https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_utility/

<動作環境>

セットアップを始める前に、お使いになっているパソコンの動作環境をご確認ください。

本ソフトウェアを快適にご利用いただくためには、以下の環境を満たしていることが必要です。

本ソフトウェアには、外部ファイルからのデータ読み取りや外部ファイルへのデータ出力機能が備えられています。それらの機能を利用する場合には、管理者権限を必要とする場合がありますのでご注意ください。

環境項目	必要な動作条件
CPU 周波数	1.0GHz 以上
メモリ容量	512MB 以上
OS	Windows10、Windows8.1、Windows8、Windows7、WindowsVista
.NET Framework	Microsoft .NET Framework 3.5 以上
ディスプレイ解像度	1024 x 768 以上

5.3.2 動作確認(TCP/IP)

TR3X-LN01 での動作確認方法について説明します。

PC とリーダライタ間で TCP/IP 通信を行うためには、双方の端末同士で IP アドレスとサブネットマスクを通信可能な状態に設定しておく必要があります。

ここでは、リーダライタの IP アドレスとサブネットマスクが出荷時設定であるケースを例に説明します。PC もリーダライタの出荷時設定に合わせて IP アドレスやサブネットマスクを変更する必要があります。変更方法は、(3)で説明します。

リーダライタの IP アドレス	192.168.0.1
リーダライタのサブネットマスク	255.255.255.0(マスク長：24 ビット)
PC に設定する IP アドレス	192.168.0.*** (任意)
PC に設定するサブネットマスク	255.255.255.0(マスク長：24 ビット)

- (1) リーダライタ(アンテナを接続した状態)と PC を LAN クロスケーブルで直接接続し、電源を入れてください。
- (2) 「TR3RWManager」を起動します。

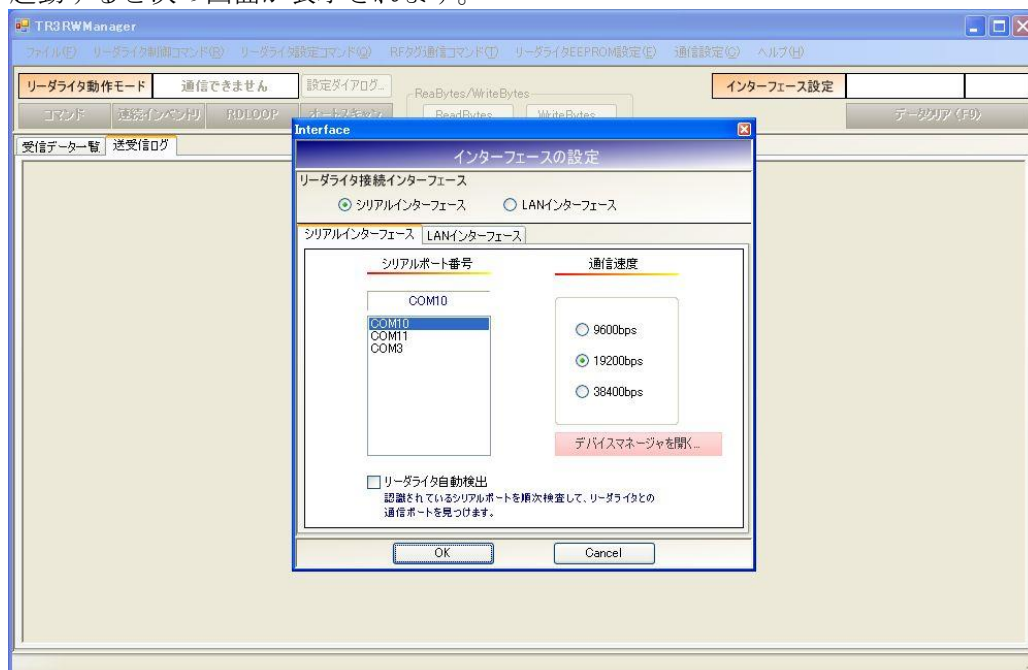
本ソフトウェアは起動時や終了時に設定ファイルの読み書きを行いますので、プログラムを管理者として実行する必要があります。

「管理者としてログインする」と「管理者としてプログラムを実行する」ことは異なりますのでご注意ください。

「デスクトップ上のショートカット」または「プログラムの実行ファイル」からプロパティを開き、「互換性」タブの「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れておくことで、常に管理者として実行することが可能です。

デスクトップ上に作成されたショートカットアイコン  をダブルクリックすると「TR3RWManager」が起動します。

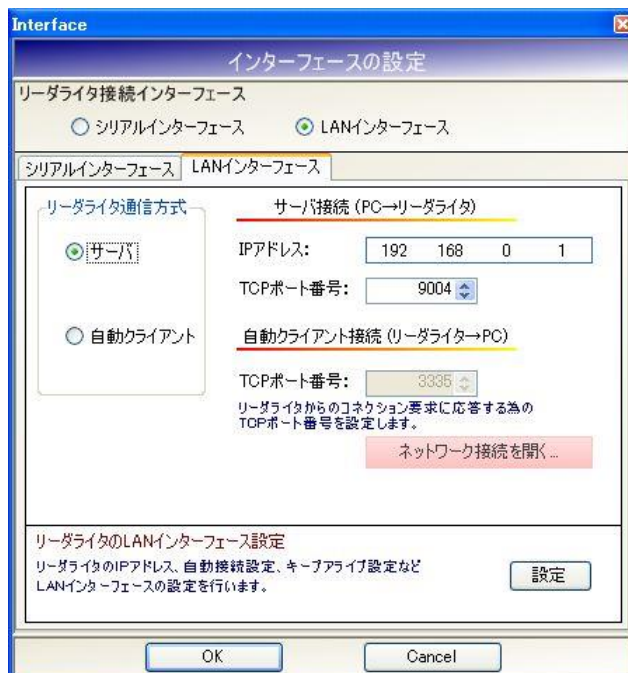
起動すると次の画面が表示されます。



(3) インターフェースの設定を選択します。

「LAN インターフェース」にチェックを入れ、次の画面のように入力します。

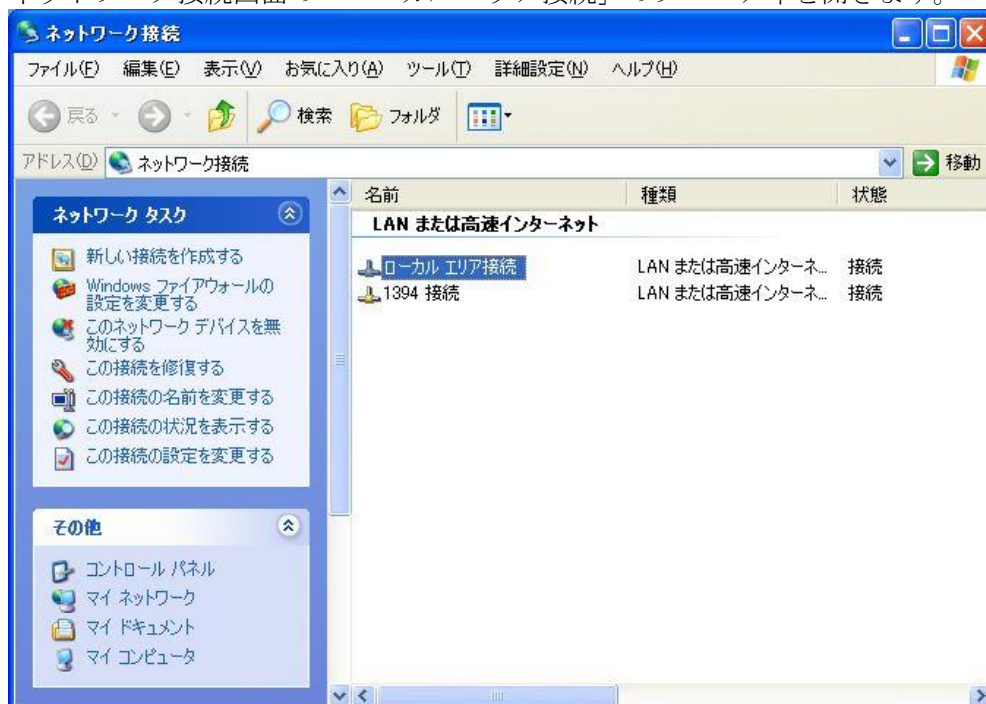
PC 側のネットワーク設定(後述)が完了したら、[OK]ボタンをクリックしてください。



設定項目	設定内容
リーダライタ通信方式	サーバ方式
IP アドレス	192.168.0.1
TCP ポート番号	9004

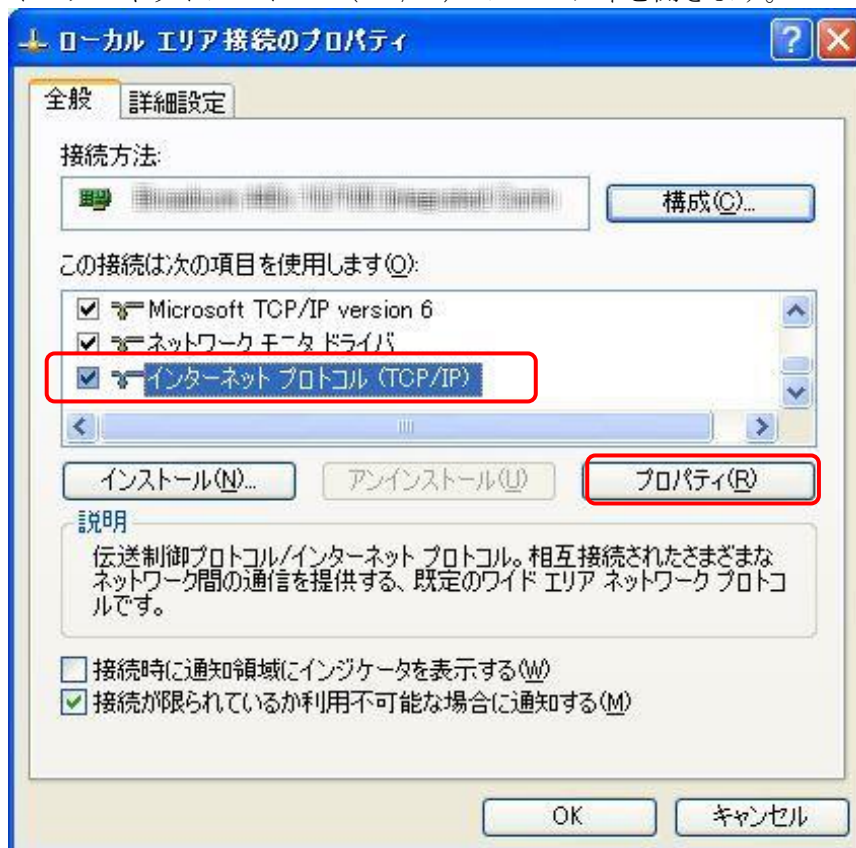
- PC の IP アドレスとサブネットマスクを変更する
PC の IP アドレスとサブネットマスクを変更するには、Windows のネットワーク接続画面を起動する必要があります。
ネットワーク接続画面は、インターフェースの設定画面上の[ネットワーク接続を開く]ボタンをクリックすると起動します。

ネットワーク接続画面の「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。

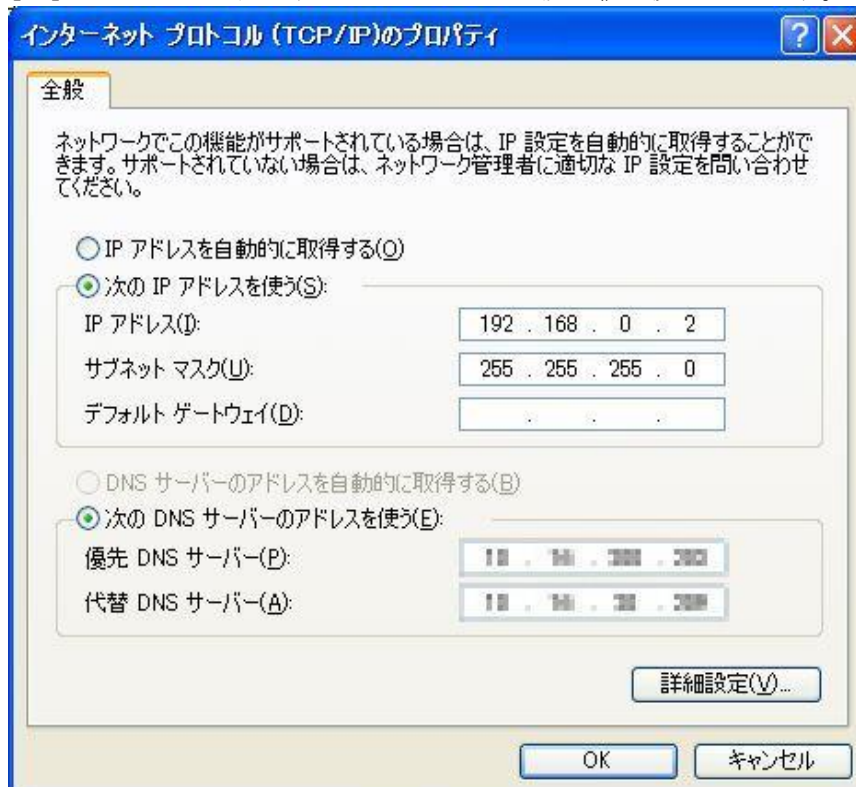


次のページに続く

インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティを開きます。



IP アドレス入力欄に「192.168.0.*** (任意)」を入力します。
サブネットマスク入力欄に「255.255.255.0」を入力します。
[OK] ボタンをクリックすることで入力した設定値が反映されます。



(4) 起動画面を確認します。

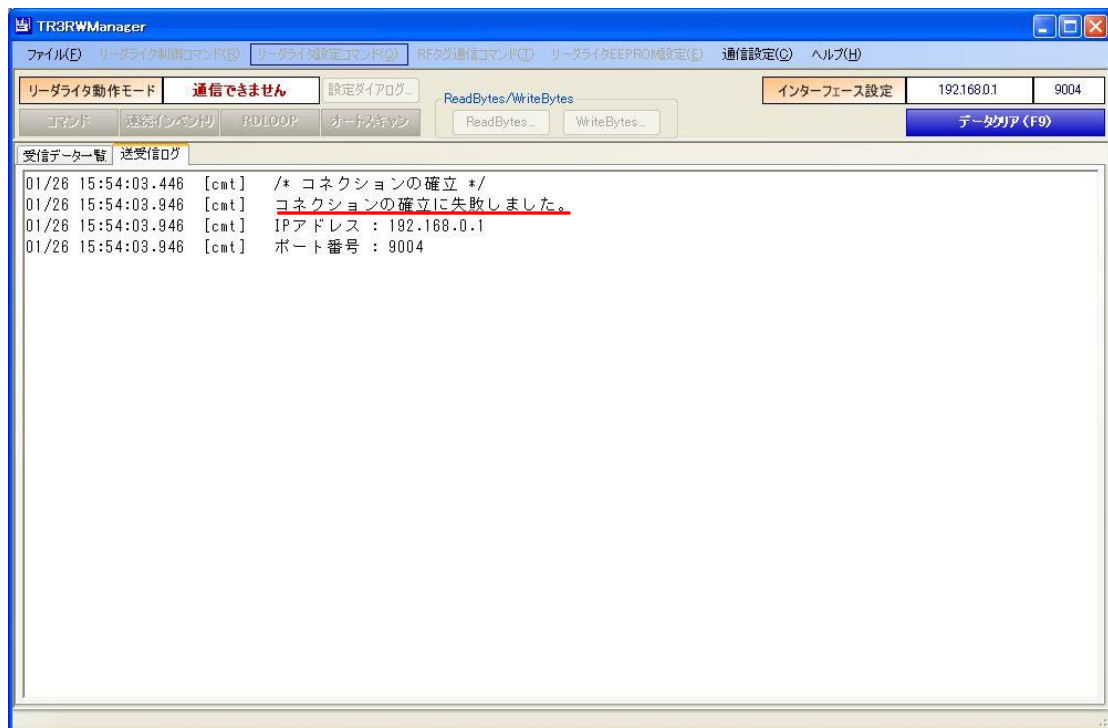
リーダライタとの通信が正常に開始された場合は、次の画面のように表示されます。

通信の確立に成功し、リーダライタの ROM バージョンと動作モードの読み取りが行われます。

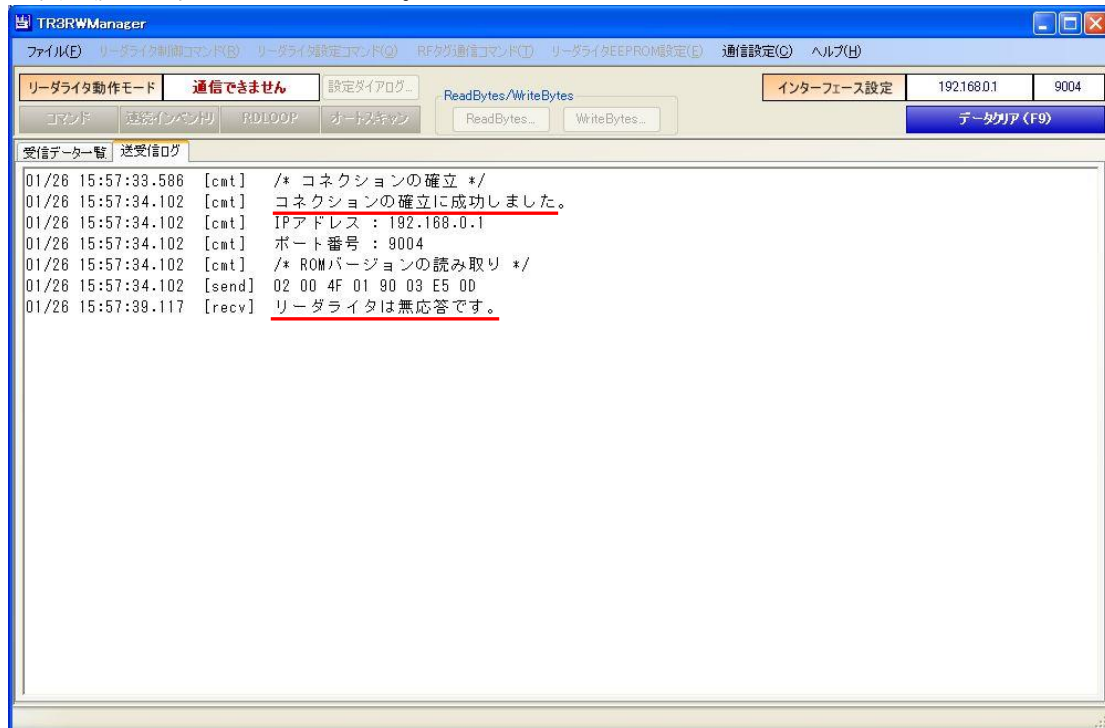


通信の確立に失敗した場合は、次の画面のように表示されます。

リーダライタの IP アドレスと TCP ポート番号を再度確認ください。



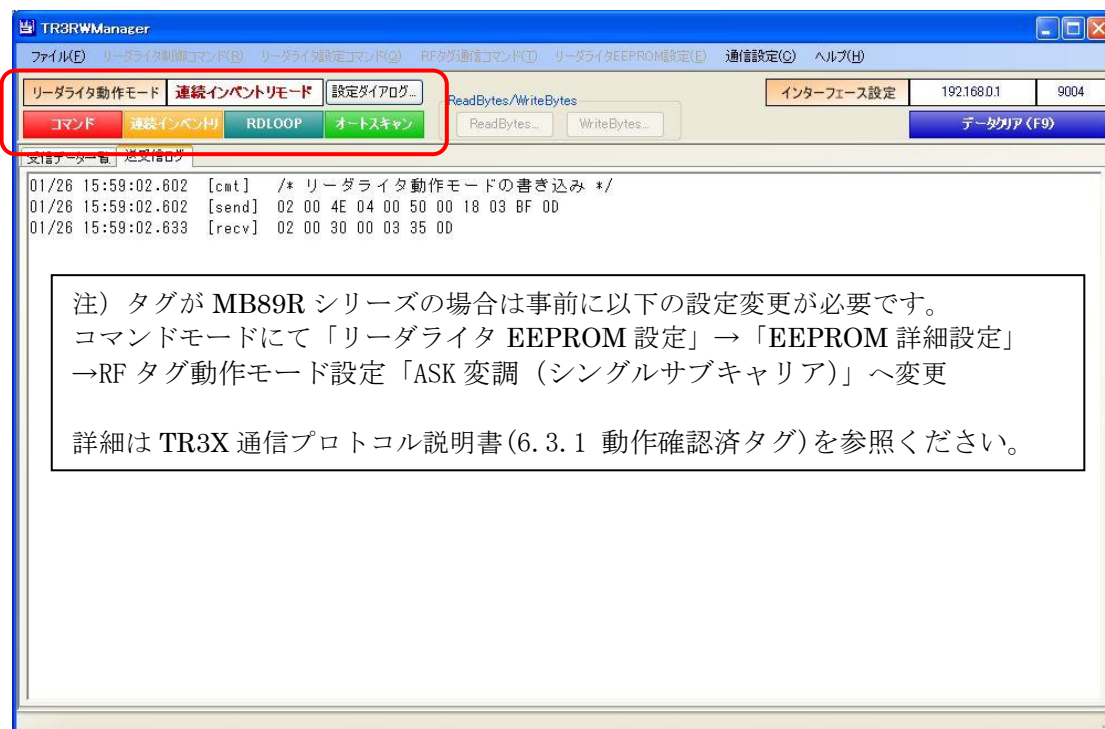
リーダライタの内部で LANI/F ボード側の通信速度とリーダライタモジュール側の通信速度の設定が異なっている場合には、次の画面のように表示されます。
通信速度の整合を取るため、「7.2 LAN インターフェース設定の確認/変更」を参照して、通信速度の設定を変更してください。



- (5) 連続インベントリモードにします。

画面上の[連続インベントリ]をクリックすることで、リーダライタは「連続インベントリモード」へ遷移します。

メニューバーに配置された各種メニュー（リーダライタ制御コマンドメニュー・リーダライタ設定コマンドメニューなど）は使用不可となります。各種メニューを使用するには、「コマンド」ボタンをクリックし「コマンドモード」へ遷移してください。



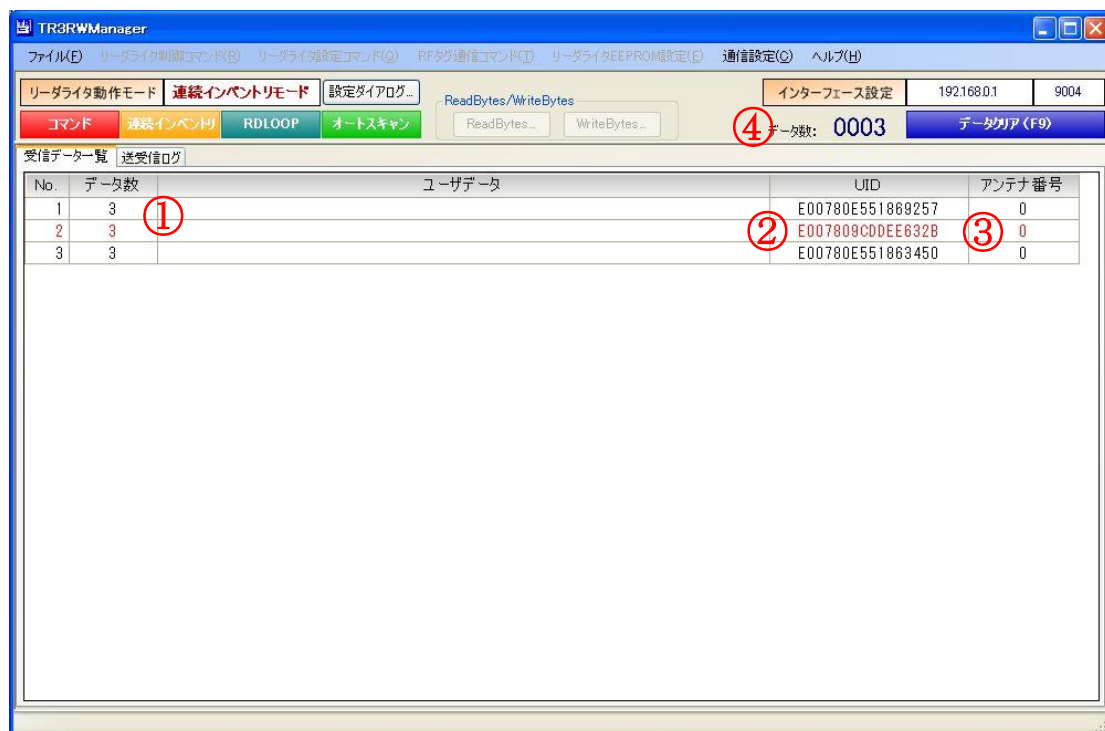
- (6) RF タグと交信します。
アンテナ上に RF タグを近づけると、リーダライタとアンテナが交信します。
RF タグの UID 読み取りと共に LED が点灯します。

連続インベントリモードで動作するリーダライタから送信されたデータは、TR3RWManger の [受信データ一覧] ページと [送受信ログ] ページに表示されます。

[受信データ一覧]ページには、次の情報が表形式で表示されます。

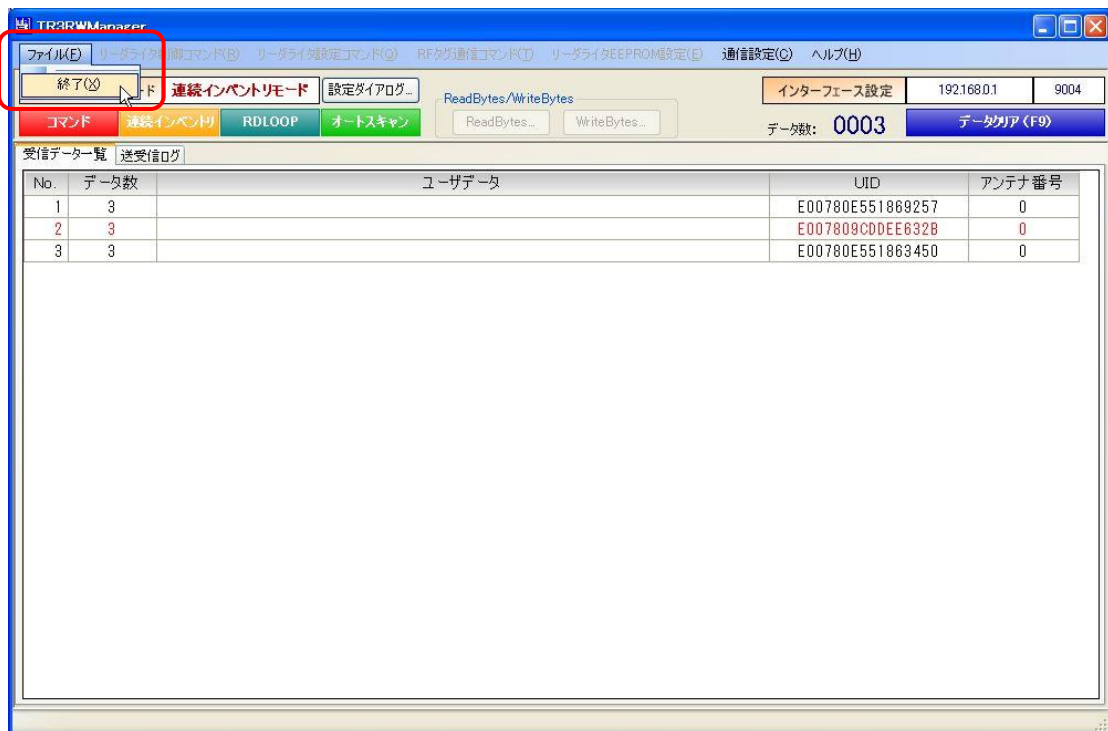
- ① データ数：読み取った回数
- ② UID：RF タグの UID
- ③ アンテナ番号：読み取ったアンテナの番号(※1：本製品には関係ありません)

また、[受信データ一覧]ページに表示中の No の数(件数)が[データクリア (F9)]ボタンの左側④に表示されます。



※1：アンテナ番号とは、切替基板を使用し複数のアンテナを制御する際の番号です。
「0」は切替基板の1番目に接続されているアンテナを表しますが、切替基板を使用していない場合も「0」で表示されます。

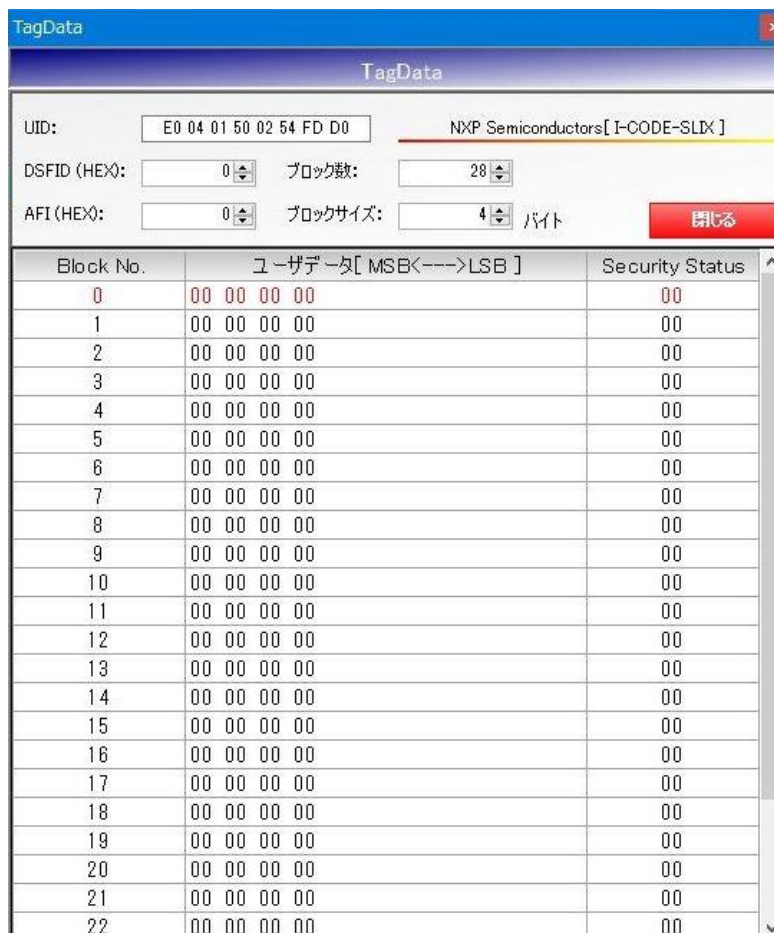
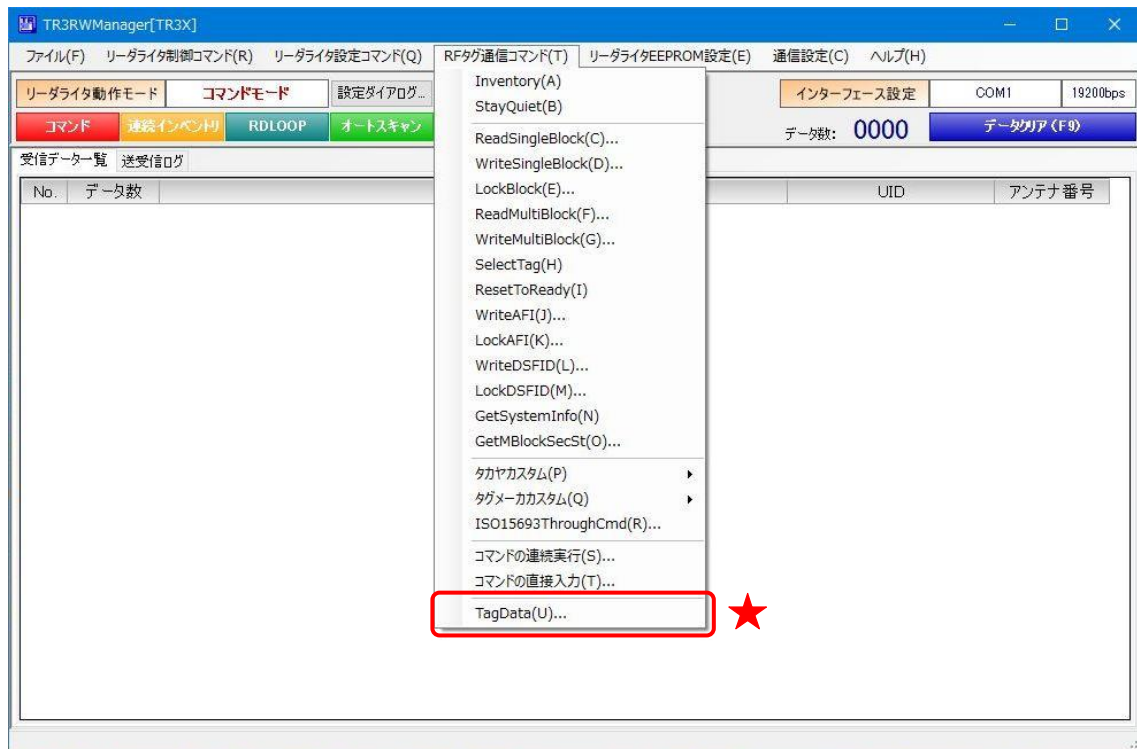
- (7) ソフトを終了する。
メニューバーの[ファイル(F)] - [終了(X)]をクリックすると「TR3RWManager」が終了します。



5.3.3 RF タグのシステム領域・ユーザ領域を確認する

「RF タグ通信コマンド」メニューの「TagData」にて、RF タグのシステム領域、および、ユーザ領域に書き込まれた情報を確認することができます。

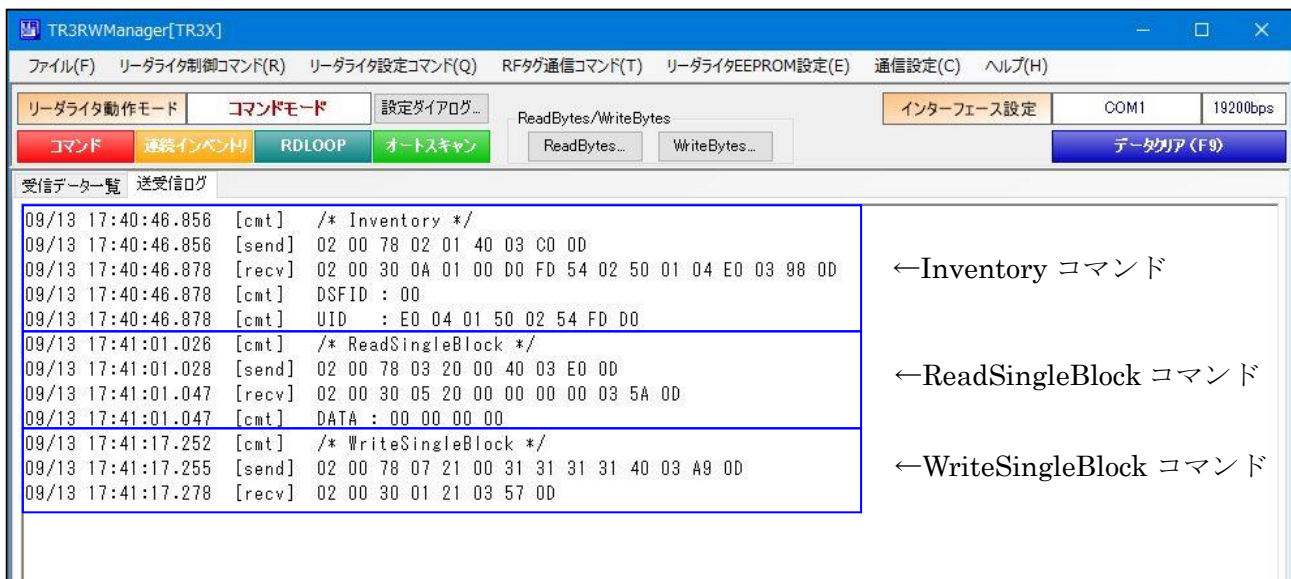
アンテナ上に RF タグを置いた状態で、「TagData」を実行してください。



5.3.4 各種コマンドのレスポンスを確認する

TR3RWManager ではリーダライタが対応している各種コマンドをお試しいただけます。

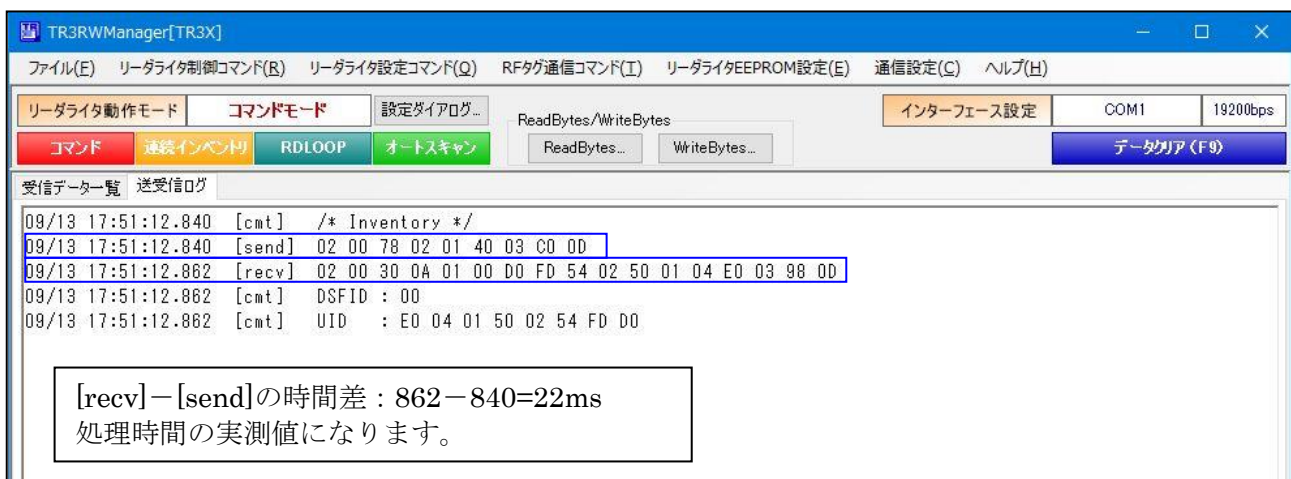
「送受信ログ」画面にてコマンドに対する RF タグからのレスポンスを確認できます。



5.3.5 各種コマンドの処理時間を確認する

TR3RWManager ではリーダライタが対応している各種コマンドの処理時間を確認することができます。「送受信ログ」画面にコマンド毎のタイムスタンプが表示されます。

コマンド[send]とレスポンス[recv]の時間差を計算することで処理時間を算出します。



第6章 仕様

本章では、本製品の仕様について説明します。

6.1 製品仕様

6.1.1 TR3X-LN01

■ 仕様

仕様	項目	内容											
適合規格	電波法 (※1)	規格番号 : ARIB STD-T82 標準規格名 : 誘導式読み書き通信設備 (ワイヤレスカードシステム等) 型式指定番号 : 第 FC-16002 号 (型式名 : TR3X-L202)											
	RoHS 指令	欧州RoHS指令 (2002/95/EC) 対応											
RF 仕様	送信周波数	13.56MHz ±50ppm (Ta=25℃)											
	送信出力	1W ± 20%											
	エアインターフェース規格	ISO/IEC15693、ISO/IEC18000-3 (Mode1) 対応											
	動作確認済タグ	ISO/IEC15693、ISO/IEC18000-3 (Mode1) 準拠 ・ Tag-it HF-I (Plus/Standard/Pro) ・ ICODE SLI (SLI/SLI-S/SLI-L/SLIX/SLIX-S/SLIX2) ・ my-d (SRF55V10P/SRF55V02P/SRF55V01P my-d light) ・ MB89R118C/MB89R119B/MB89R112A/B ・ M24LR04E-R/M24LR16E-R/M24LR64E-R/LRIS64K 注) タグの対応コマンドに関しては「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照してください。											
	データ転送速度	<table><tr><th></th><th>スピード</th><th>送信速度</th></tr><tr><td rowspan="2">本体⇒RF タグ</td><td>1/4 設定時 (初期設定)</td><td>26.48kbps</td></tr><tr><td>1/256 設定時</td><td>1.65kbps</td></tr><tr><td>RF タグ⇒本体</td><td colspan="2">26.69kbps</td></tr></table>		スピード	送信速度	本体⇒RF タグ	1/4 設定時 (初期設定)	26.48kbps	1/256 設定時	1.65kbps	RF タグ⇒本体	26.69kbps	
		スピード	送信速度										
本体⇒RF タグ	1/4 設定時 (初期設定)	26.48kbps											
	1/256 設定時	1.65kbps											
RF タグ⇒本体	26.69kbps												
変調方式	<table><tr><th></th><th>変調方式</th></tr><tr><td>本体⇒RF タグ</td><td>ASK10%</td></tr><tr><td>RF タグ⇒本体</td><td>ASK FSK (初期設定)</td></tr></table>		変調方式	本体⇒RF タグ	ASK10%	RF タグ⇒本体	ASK FSK (初期設定)						
	変調方式												
本体⇒RF タグ	ASK10%												
RF タグ⇒本体	ASK FSK (初期設定)												
交信距離	最大 62cm (SMARTRAC 社製 ICODE SLIX ラベル SC3001922-HF-R100-2) アンテナ「TR3-LA101」接続時における参考値です。 使用環境、使用アンテナ、使用タグにより交信距離は異なります。												
アンチコリジョン	対応												

<登録商標について>

本書に記載した会社名・商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標になります。
Tag-it HF-I シリーズは Texas Instruments 社、my-d シリーズは Infineon Technologies 社、
ICODE SLI シリーズは NXP Semiconductors 社、MB89R シリーズは富士通セミコンダクター社、
M24LR シリーズは STMicroelectronics 社の商標、または登録商標です。

※1 本製品は、日本の電波法で定められている型式指定の認証を受けたリーダライタモジュールを組み込んでいます。したがって、日本国内での高周波利用設備の設置許可申請は不要となります。ただし、弊社が認めない機器構成の組み合わせで使用したり、改造して不法電波を放射したりすると、電波法違反となり処罰されますのでご注意ください。

仕様	項目	内容																												
制御仕様	通信コマンド	「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照してください。																												
	初期化時間 (電源投入時)	電源投入後、約 5 秒経過後に LAN 接続可能 リスタートコマンド実行後、400ms 経過後にコマンド処理可能																												
	ホストインターフ ェース	TCP/IP(Ethernet) <table><tr><th>項目</th><th>通信仕様</th></tr><tr><td>準拠規格</td><td>IEEE802.3 10BASE-T/100BASE-TX</td></tr><tr><td>LAN 通信</td><td><u>通信速度</u> 10BaseT/100BaseTX (オートネゴシエーション) <u>通信方式</u> 全二重/半二重 (オートネゴシエーション)</td></tr><tr><td>LAN 出荷時設定</td><td>IP アドレス : 192.168.0.1 Mask Length : 24 (255.255.255.0) Local Port : 9004</td></tr><tr><td>MAC アドレス</td><td>本体側面に表示</td></tr><tr><td>LAN コネクタ LED 仕様</td><td><u>左側 LED (Link LED)</u><table><tr><th>Color</th><th>Meaning</th></tr><tr><td>Off</td><td>No Link</td></tr><tr><td>Amber</td><td>10Mbps</td></tr><tr><td>Green</td><td>100Mbps</td></tr></table> <u>右側 LED (Active LED)</u><table><tr><th>Color</th><th>Meaning</th></tr><tr><td>Off</td><td>No Activity</td></tr><tr><td>Amber</td><td>Half-Duplex</td></tr><tr><td>Green</td><td>Full-Duplex</td></tr></table></td></tr></table>	項目	通信仕様	準拠規格	IEEE802.3 10BASE-T/100BASE-TX	LAN 通信	<u>通信速度</u> 10BaseT/100BaseTX (オートネゴシエーション) <u>通信方式</u> 全二重/半二重 (オートネゴシエーション)	LAN 出荷時設定	IP アドレス : 192.168.0.1 Mask Length : 24 (255.255.255.0) Local Port : 9004	MAC アドレス	本体側面に表示	LAN コネクタ LED 仕様	<u>左側 LED (Link LED)</u> <table><tr><th>Color</th><th>Meaning</th></tr><tr><td>Off</td><td>No Link</td></tr><tr><td>Amber</td><td>10Mbps</td></tr><tr><td>Green</td><td>100Mbps</td></tr></table> <u>右側 LED (Active LED)</u> <table><tr><th>Color</th><th>Meaning</th></tr><tr><td>Off</td><td>No Activity</td></tr><tr><td>Amber</td><td>Half-Duplex</td></tr><tr><td>Green</td><td>Full-Duplex</td></tr></table>	Color	Meaning	Off	No Link	Amber	10Mbps	Green	100Mbps	Color	Meaning	Off	No Activity	Amber	Half-Duplex	Green	Full-Duplex
	項目	通信仕様																												
	準拠規格	IEEE802.3 10BASE-T/100BASE-TX																												
	LAN 通信	<u>通信速度</u> 10BaseT/100BaseTX (オートネゴシエーション) <u>通信方式</u> 全二重/半二重 (オートネゴシエーション)																												
	LAN 出荷時設定	IP アドレス : 192.168.0.1 Mask Length : 24 (255.255.255.0) Local Port : 9004																												
	MAC アドレス	本体側面に表示																												
	LAN コネクタ LED 仕様	<u>左側 LED (Link LED)</u> <table><tr><th>Color</th><th>Meaning</th></tr><tr><td>Off</td><td>No Link</td></tr><tr><td>Amber</td><td>10Mbps</td></tr><tr><td>Green</td><td>100Mbps</td></tr></table> <u>右側 LED (Active LED)</u> <table><tr><th>Color</th><th>Meaning</th></tr><tr><td>Off</td><td>No Activity</td></tr><tr><td>Amber</td><td>Half-Duplex</td></tr><tr><td>Green</td><td>Full-Duplex</td></tr></table>	Color	Meaning	Off	No Link	Amber	10Mbps	Green	100Mbps	Color	Meaning	Off	No Activity	Amber	Half-Duplex	Green	Full-Duplex												
	Color	Meaning																												
Off	No Link																													
Amber	10Mbps																													
Green	100Mbps																													
Color	Meaning																													
Off	No Activity																													
Amber	Half-Duplex																													
Green	Full-Duplex																													
LAN 設定ツール	IPSet2 (IPSET は使用できません)																													
IP 設定初期化方法	IPSet2 にて「現状の IP アドレス確認」「出荷時設定への変更」が 可能です。 操作手順は「IPSet2 取扱説明書」を参照してください。																													
動作表示 LED	3 個／電源 (緑色 LED)、確認 (青色 LED・赤色 LED) 点灯条件は「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照して ください。																													
ブザー	有り																													

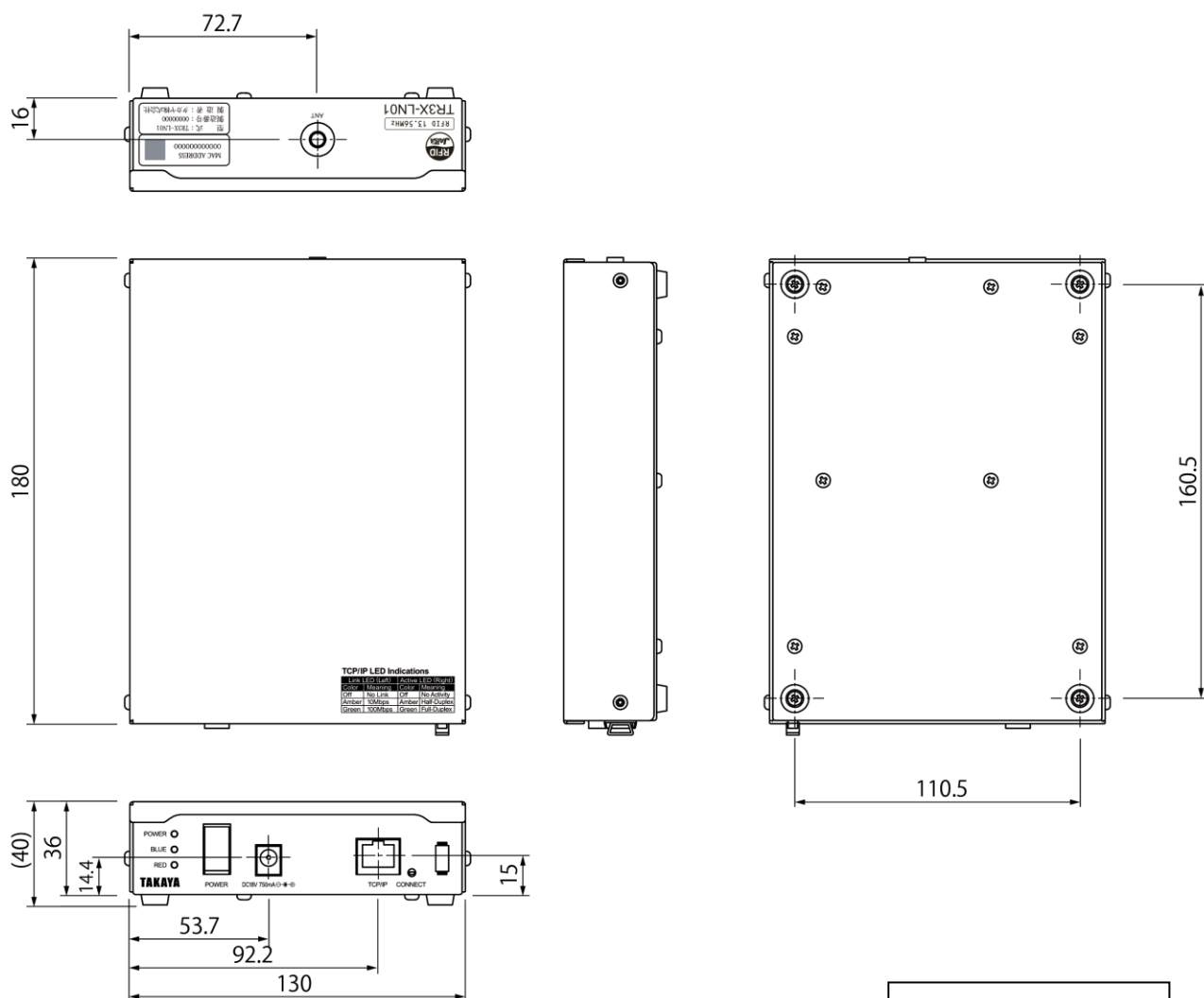
仕様	項目	内容																							
制御仕様	アンテナ機能 (※1)	<u>LED</u> (初期設定) タグデータの読取り時、または上位コマンド制御によりアンテナ表面上 LED が点灯します。 <u>スイッチ</u> アンテナ手元のスイッチの ON/OFF 操作により、タグデータ読取り制御を行います。																							
	接続可能アンテナ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>タイプ</th><th>型番</th><th>対応機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">平面</td><td>TR3-LA101</td><td rowspan="5">—</td></tr> <tr> <td>TR3-LA201</td></tr> <tr> <td>TR3-LA7412</td></tr> <tr> <td>TR3-LA1818</td></tr> <tr> <td>TR3-WA103</td></tr> <tr> <td rowspan="6">ハンディ</td><td>TR3-HA101A</td><td rowspan="6">スイッチ</td></tr> <tr> <td>TR3-HA201A</td></tr> <tr> <td>TR3-HA301A</td></tr> <tr> <td>TR3-HA101 ※2</td></tr> <tr> <td>TR3-HA201 ※2</td></tr> <tr> <td>TR3-HA301 ※2</td></tr> <tr> <td rowspan="4">薄型</td><td>TR3-SA102</td><td rowspan="4">LED</td></tr> <tr> <td>TR3-SA102M</td></tr> <tr> <td>TR3-SA101 ※2</td></tr> <tr> <td>TR3-SA101M ※2</td></tr> </tbody> </table>	タイプ	型番	対応機能	平面	TR3-LA101	—	TR3-LA201	TR3-LA7412	TR3-LA1818	TR3-WA103	ハンディ	TR3-HA101A	スイッチ	TR3-HA201A	TR3-HA301A	TR3-HA101 ※2	TR3-HA201 ※2	TR3-HA301 ※2	薄型	TR3-SA102	LED	TR3-SA102M	TR3-SA101 ※2
タイプ	型番	対応機能																							
平面	TR3-LA101	—																							
	TR3-LA201																								
	TR3-LA7412																								
	TR3-LA1818																								
	TR3-WA103																								
ハンディ	TR3-HA101A	スイッチ																							
	TR3-HA201A																								
	TR3-HA301A																								
	TR3-HA101 ※2																								
	TR3-HA201 ※2																								
	TR3-HA301 ※2																								
薄型	TR3-SA102	LED																							
	TR3-SA102M																								
	TR3-SA101 ※2																								
	TR3-SA101M ※2																								

※1：アンテナには LED やスイッチを搭載した機種があり、その機能を使用する設定は上位機器からのコマンド制御、またはユーティリティツール (TR3RWManager) を使用して、ソフト的に切り替えます。

※2：販売終息品

仕様	項目	内容									
コネクタ	アンテナ接続用コネクタ	SMA(J)×1 <table><tr><td></td><td>信号名</td><td>機能</td></tr><tr><td>中心コンタクト</td><td>RF</td><td>RF 出力</td></tr><tr><td>シェル</td><td>GND</td><td>アナログ GND</td></tr></table>		信号名	機能	中心コンタクト	RF	RF 出力	シェル	GND	アナログ GND
		信号名	機能								
	中心コンタクト	RF	RF 出力								
	シェル	GND	アナログ GND								
LAN 接続用コネクタ	RJ-45 ステーションポート×1										
DC ジャック	対応プラグ形状：9.5×外形φ5.5 内径φ2.5mm ＜ピンアサイン＞ <table><tr><td></td><td>信号名</td><td>機能</td></tr><tr><td>中心電極</td><td>VCC</td><td>電源入力</td></tr><tr><td>外周電極</td><td>GND</td><td>GND</td></tr></table>		信号名	機能	中心電極	VCC	電源入力	外周電極	GND	GND	
	信号名	機能									
中心電極	VCC	電源入力									
外周電極	GND	GND									
機構仕様	本体寸法	130(W)×180(D)×36(H)mm（突起物はこのぞく） 【寸法図】後掲									
	本体質量	約 900g									
	材質	ケースの材質 <table><tr><td>名称</td><td>材質名</td></tr><tr><td>上カバー、下カバー</td><td>鋼板（塗装仕上げ）</td></tr><tr><td>ゴム足</td><td>天然ゴム</td></tr></table>	名称	材質名	上カバー、下カバー	鋼板（塗装仕上げ）	ゴム足	天然ゴム			
	名称	材質名									
上カバー、下カバー	鋼板（塗装仕上げ）										
ゴム足	天然ゴム										
電氣的特性	電源	本体入力電圧：DC+18V ±10% 本体消費電流：約 410mA 送信停止時の消費電流：約 230mA 本体消費電力：最大約 7.8W									
環境特性	動作温度	0～40℃									
	動作湿度	30～80%RH(結露なきこと)									
	保存温度	0～55℃									
	保存湿度	30～80%RH(結露なきこと)									
その他	付属品	・AC アダプタ 1 台 型番：TR3X-PWR-18V-1 ・CD-ROM 1 枚 型番：CDROM-TR3MNL ・本体固定用ブラケット 一式 2 枚 型番：TR3X-BRKT1									

■ 寸法図



単位：mm
寸法公差：±1mm
()は参考寸法

6.2 付属品仕様

6.2.1 ACアダプタ (型番：TR3X-PWR-18V-1)

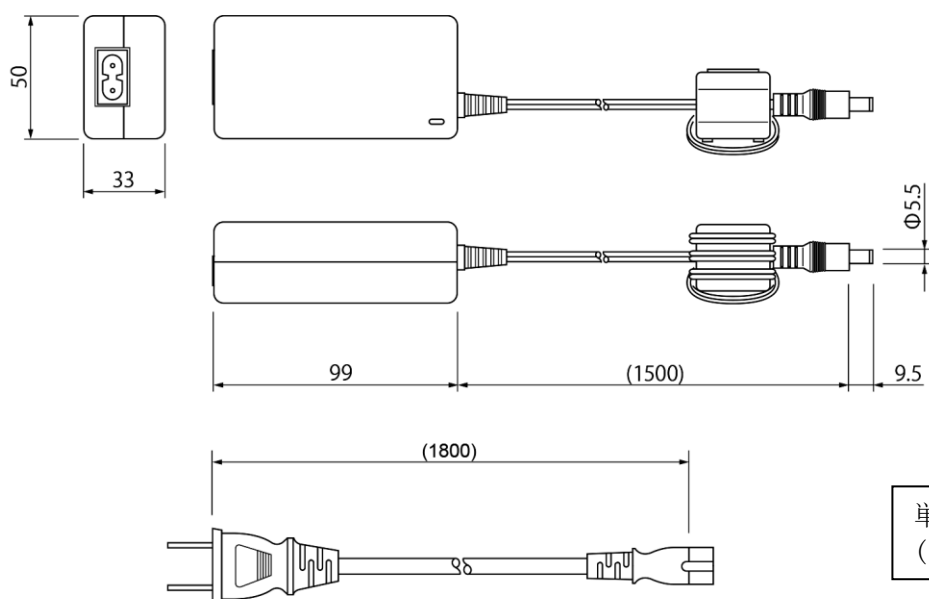
■ 仕様

仕様	項目	内容
適合規格	適合宣言	CE marked
	EMC 規格	FCC Part15 ClassB
	安全規格	UL/CUL/GS/PSE/BSMI/CB/RCM/CCC
	RoHS 指令	欧州RoHS指令 (2011/65/EU) 対応
	エネルギー消費効率基準	EFFICIENCY LEVEL VI
入力仕様	定格入力電圧	AC100V～AC240V
	周波数	50～60Hz
出力仕様	定格出力電圧	DC18V±5%
	定格出力電流	2.0A
	出力極性	センタープラス
	プラグ形状	9.5×外形φ5.5 内径φ2.5
機構仕様	質量	約 170g
	外形寸法	50(W)×99(D)×33(H)mm (コード部、突起物はこのぞく)
	ケーブル長	DCプラグ側：約 1500mm ACプラグ側：約 1800mm
環境特性	動作温度	0～40℃
	動作湿度	20～80%RH
	保存温度	-20～80℃
	保存湿度	10～90%RH

<ご注意>

本 AC アダプタに付属する AC コードは本製品専用です。
本製品以外との組み合わせでは使用できませんのでご注意ください。

■ 寸法図



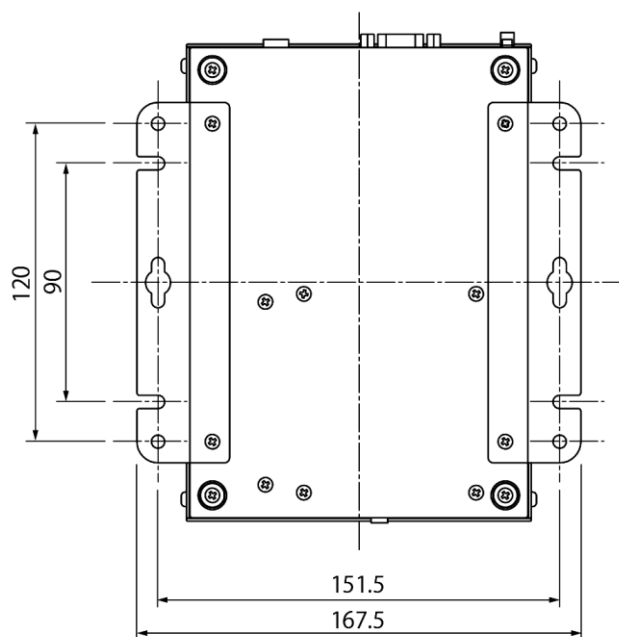
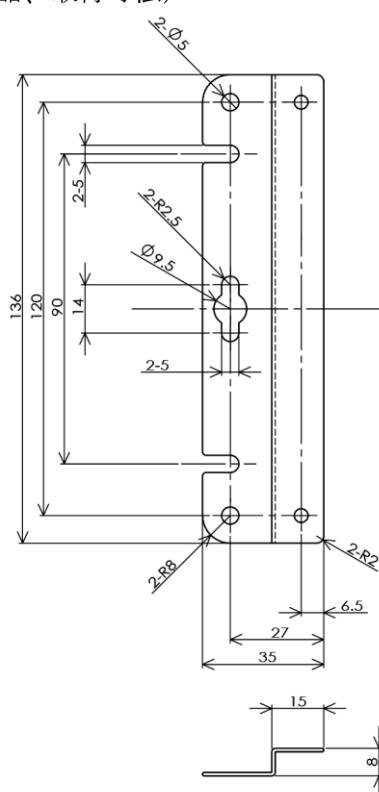
単位：mm
()内は参考寸法

6.2.2 本体固定用ブラケット(型番：TR3X-BRKT1)

■ 仕様

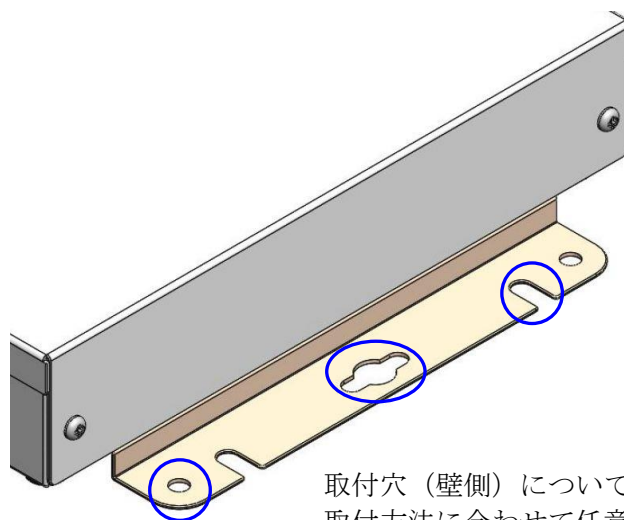
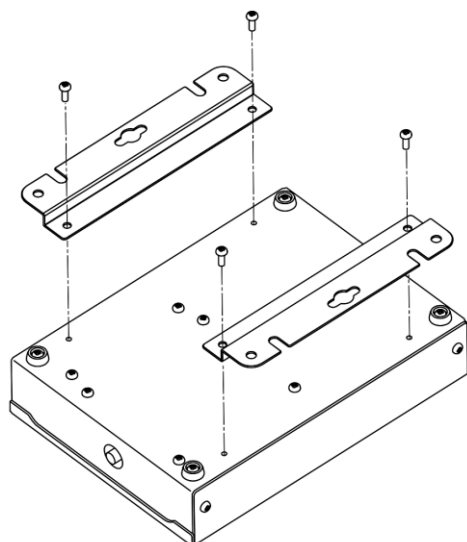
仕様	内容
RoHS 指令	欧州RoHS指令 (2002/95/EC) 対応
寸法	136 (W) × 35 (D) × 8 (H) mm
質量	約 40g (1 枚)
色調	ライトグレー
材質	鋼板 (塗装仕上げ)
数量	2 枚
取付方法	下図「ブラケット取付図」参照ください

■ 寸法図 (単品、取付寸法)



単位：mm
寸法公差：±1mm

■ ブラケット取付図



取付穴 (壁側) については
取付方法に合わせて任意の穴を
ご使用ください。

6.3 EEPROM 設定一覧

本節では、リーダライタの設定内容について説明します。
ユーティリティツールとコマンドにより設定確認および変更ができます。ここではツールを使用した方法について記載します。
コマンドによる変更については、「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」を参照ください。

6.3.1 EEPROM 詳細設定

ユーティリティツール起動後、コマンドモードに設定し、メニューから以下の手順で表示します。

メニューバー - [リーダライタ EEPROM 設定] - [EEPROM 詳細設定]



TR3RWManager で変更可能な EEPROM 設定値が一覧表示されます。

EEPROM詳細設定				
EEPROM設定一覧				
	設定内容	設定値	設定内容	設定値
●EEPROM設定一覧	汎用ポート1の機能	LED制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード	コマンドモード
	汎用ポート2の機能	トリガー制御信号入力ポート	リーダライタ動作モード - アンチコリジョン	無効
	汎用ポート3の機能	機能選択	リーダライタ動作モード - 読み取り動作	連続読み取り
リーダライタ動作モード設定	汎用ポート7の機能	ブザー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - ブザー	鳴らす
	汎用ポート3の機能選択	エラー制御信号出力ポート	リーダライタ動作モード - 送信データ	ユーザデータのみ
RFタグ動作モード設定	汎用ポート1の入出力設定	入力	リーダライタ動作モード - 通信速度	19200bps
	汎用ポート2の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 符号化方式	ISO15693(1/4)
汎用ポート設定	汎用ポート3の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - 変調度	10%
	汎用ポート4の入出力設定	入力	RFタグ動作モード - サブキャリア	デュアルサブキャリア(FSK)
アンテナ切替設定	汎用ポート5の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取り開始ブロック番号	0
	汎用ポート6の入出力設定	入力	RDLOOPモード読み取りデータ長	4
各種設定1	汎用ポート7の入出力設定	入力	アンチコリジョンモード	通常処理モード
	汎用ポート8の入出力設定	出力	AFI値の設定 (HEX)	0
各種設定2	汎用ポート1の初期値	1	自動読み取りモード動作時のAFI指定	無効
	汎用ポート2の初期値	1	RFタグ通信コマンドのリトライ回数	1
設定保存/復元	汎用ポート3の初期値	1	SimpleWriteコマンド実行時のUID指定	無効
	汎用ポート4の初期値	1	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	無効
	汎用ポート5の初期値	1	ノードコマンドの設定	無効
	汎用ポート6の初期値	1	ブザー種類の設定	標準
	汎用ポート7の初期値	1	1ブロック当たりのバイト数	4バイト
	汎用ポート8の初期値	1	RFタグ通信設定	通常設定
	アンテナ自動切替	無効	リーダライタのID (HEX)	0
	接続アンテナ数	0	E-CODE SLIX サポート	「本設定値は無効なフィールド起動時OFF(コマンド受付以
	アンテナ自動切替制御信号	拡張ポート	RF送信信号設定	My-dカスタムコマンド
	アンテナ自動切替時のアンテナID出力	無効	My-d自動識別時のアクセス方式	ReadSingleBlock
	カスケード接続	無効	ReadBytes / RDLOOP系の内部処理	通常
	カスケードポート1の接続アンテナ数	0	S6700互換モード設定	通常
	カスケードポート2の接続アンテナ数	0	アンテナ機能	LED機能有効
	カスケードポート3の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート4の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート5の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート6の接続アンテナ数	0		
	カスケードポート7の接続アンテナ数	0		

6.3.2 RF タグ動作モード

「EEPROM 詳細設定」にて「RF タグ動作モード設定」をクリックすることで、RF タグの動作モードに関するパラメータの表示・設定変更が可能です。

RF タグ動作モード設定				
設定項目	設定内容			
	設定値	説明		初期値
リーダライタ→RF タグ				
符号化方式	ISO15693 (1/4)	R/W→RF タグのデータ 転送速度を設定します。	転送速度：26.48kbps	○
	ISO15693 (1/256)		転送速度：1.65kbps	
	変調度	10%	R/W→RF タグ (ASK 変調) の変調度を設定します。	○
		100%		
RF タグ→リーダライタ				
サブキャリア	FSK	RF タグ→R/W の変調方式を設定します。	○	
	ASK			

6.3.3 リーダライタ動作モード

「EEPROM 詳細設定」にて「リーダーライタ動作モード設定」をクリックすることで、リーダーライタの動作モードに関するパラメータの表示・設定変更が可能です。

リーダーライタ動作モード設定			
設定項目	設定内容		
	設定値	説明	初期値
リーダーライタ動作モード	コマンドモード	ISO15693 関連のコマンド処理や、リーダーライタの設定確認、変更などを行うモード	○
	連続インベントリモード	各種自動読み取りモード ※詳細は「TR3X シリーズ通信プロトコル 説明書」参照	
	RDL00P モード		
	オートスキャンモード		
	トリガーモード		
アンチコリジョン	ポーリングモード	EAS モード ※1	
	EAS モード ※1		
アンチコリジョン	無効 (単独読み取り)	RF タグ 1 枚を読み取るモード(※2) ※コマンドモード以外のモードで有効	○
	有効 (複数同時読み取り)	複数枚の RF タグを読み取るモード ※コマンドモード以外のモードで有効	
読み取り動作	1 回読み取り	RF タグのデータを 1 回のみ読み取るモード ※全ての動作モードで有効	
	連続読み取り	RF タグのデータを連続で読み取るモード ※全ての動作モードで有効	○
ブザー	鳴らさない	起動時、および、RF タグ交信時のブザー	
	鳴らす	鳴動設定	○
送信データ	ユーザデータのみ	以下の動作モード時に上位へ送信するデータの形式を設定します。 ・オートスキャンモード ・トリガーモード ・ポーリングモード	○
	ユーザデータ+UID		
通信速度	9600bps	リーダーライタモジュールのシリアル通信速度 ※3 (リーダーライタモジュール側の設定値)	
	19200bps		○
	38400bps		
ポーリング時間	0～65535 (×200ms)	ポーリングモード時有効。 ポーリング時間を設定します。	0

※1 本機種では、EAS モードは未サポートです。

※2 自動読取モードの場合、複数枚の RF タグが同時に存在する条件では正常に読み取りできません。

※3 リーダライタ内部の LAN インターフェース基板とリーダーライタモジュール間の通信速度を表します。

6.3.4 汎用ポート設定

「EEPROM 詳細設定」にて「汎用ポート設定」をクリックすることで、リーダライタの汎用ポートに関するパラメータの表示・設定変更が可能です。
この設定は、コマンドによる変更はできません。

汎用ポート設定（IO1～IO3）				
設定項目	設定内容			
	設定値	説明		初期値
汎用ポート 1（通常ポート）				
用途	LED 制御信号出力ポート	LED 点灯用出力信号 読み取り時に LED が点灯します。		○
	汎用ポート	汎用入出力ポート（アンテナ切替信号など）で 使用します。		
入/出力設定	入力	用途が[汎用ポート]の場合に有効な設定です。 ポート 1 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	用途が[汎用ポート]、かつ、入/出力設定が[出力] の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			○
汎用ポート 2（通常ポート）				
用途	トリガー制御信号出力ポート	トリガー用入力信号 トリガーモード時有効。		○
	汎用ポート	汎用入出力ポート（アンテナ切替信号など）で 使用します。		
入/出力設定	入力	用途が[汎用ポート]の場合に有効な設定です。 ポート 2 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	用途が[汎用ポート]、かつ、入/出力設定が[出力] の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			○
汎用ポート 3（通常ポート）				
用途	機能選択			
	RS485 制御信号出力ポート	RS485 用制御信号 RS485 通信時に使用します。		
	エラー制御信号出力ポート	自動読み取り時の読み取りエラー信号として使用 します。		○
	汎用ポート	汎用入出力ポート（アンテナ切替信号など）で 使用します。		
入/出力設定	入力	用途が[汎用ポート]の場合に有効な設定です。 ポート 3 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	用途が[汎用ポート]、かつ、入/出力設定が[出力] の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			○

汎用ポート設定 (I04～I08)				
設定項目		設定内容		
		設定値	説明	初期値
汎用ポート 4 (拡張ポート)				
入/出力設定	入力	ポート 4 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	入/出力設定が[出力]の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			○
汎用ポート 5 (拡張ポート)				
入/出力設定	入力	ポート 5 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	入/出力設定が[出力]の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			○
汎用ポート 6 (拡張ポート)				
入/出力設定	入力	ポート 6 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	入/出力設定が[出力]の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			○
汎用ポート 7 (拡張ポート)				
用途	ブザー制御信号 出力ポート	ブザー制御用出力信号 「ブザー」固定で使用します。		○
	汎用ポート			
入/出力設定	入力	[入力]固定で使用します。		○
	出力			
初期値	0			
	1			
汎用ポート 8 (拡張ポート)				
入/出力設定	入力	ポート 8 の入出力を設定します。		○
	出力			
初期値	0	入/出力設定が[出力]の場合に有効な設定です。 起動時の出力初期値が 0 か 1 かを設定します。		
	1			

6.3.5 アンテナ切替設定

「EEPROM 詳細設定」にて「アンテナ切替設定」をクリックすることで、リーダライタのアンテナ切替設定に関するパラメータの表示・設定変更が可能です。

※当機種 (TR3X-LN01) はアンテナ切替機能を有しておりませんので、「アンテナ切替設定」は通常は変更しません。初期値のままでお使いください。

アンテナ切替設定			
設定項目	設定内容		
	設定値	説明	初期値
アンテナ自動切替	無効	上位でアンテナ切替制御を行う場合は、「無効」に設定します。	○
	有効	R/W のアンテナ自動切替機能を使用する場合は、「有効」に設定します。	
接続アンテナ数	0～7	アンテナ自動切替[有効]時、接続するアンテナ数を設定します。 設定値：「接続アンテナ数－1」 (例：アンテナ 3 枚を接続する場合は「2」)	0
アンテナ自動切替制御信号	通常ポート	TR3 ショートレンジ	
	拡張ポート	TR3 ミドルレンジ/ロングレンジ TR3-C202 系 TR3XM シリーズ (SB01 を除く) TR3X シリーズ	○
アンテナ ID 出力 (識別機能有効)	無効	アンテナ自動切替使用時、[有効]に設定します。	○
	有効	RF タグと交信したアンテナ ID を上位出力します。	
カスケード接続	無効	カスケード接続構成時、[有効]に設定します。	○
	有効	8ch までのアンテナ切替の場合は設定不要です。	
カスケードポート 1 の 接続アンテナ数	0～8	カスケード接続時、接続するアンテナ数を設定します。(未使用時:0) ※詳細は「アンテナ切替取扱説明書」参照	0
カスケードポート 2 の 接続アンテナ数	0～8		0
カスケードポート 3 の 接続アンテナ数	0～8		0
カスケードポート 4 の 接続アンテナ数	0～8		0
カスケードポート 5 の 接続アンテナ数	0～8		0
カスケードポート 6 の 接続アンテナ数	0～8		0
カスケードポート 7 の 接続アンテナ数	0～8		0
カスケードポート 8 の 接続アンテナ数	0～8		0

6.3.6 各種設定

「EEPROM 詳細設定」にて「各種設定」をクリックすることで、リーダライタの各種設定に関するパラメータの表示・設定変更が可能です。

各種設定 1				
設定項目	設定内容			初期値
	設定値	説明		
RDLOOP モード： 読み取り開始ブロック 番号	0～255	RDLOOP モード使用時、 読み取り開始ブロック番号を設定します。		0
RDLOOP モード： 読み取りデータ長	1～247	RDLOOP モード使用時、 読み取りデータ長を設定します。		4
アンチコリジョンモード	通常処理モード	アンチコリジョン設定[有効]時、 処理モード[処理速度]を選択します。 読み取り枚数により、効果が異なります。 ※詳細は「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」 参照		
	高速処理モード 1			○
	高速処理モード 2			
	高速処理モード 3			
AFI 値の設定 (HEX)	0～FF	R/W へ AFI 値を設定します。EAS モード、AFI 指定 の自動読み取りモードで使用します。		0
自動読み取り動作モード時の AFI 指定	無効	「AFI 値」を使用して、符合する RF タグの読み取り を行います。各自動読み取りモードにて有効。		○
	有効			
RF タグ通信コマンドの リトライ回数	1～255	コマンド実行時、[設定値-1]をリトライ回数上限 とし、ACK 受信するまで R/W 側で処理を繰り返 します。初期設定「1」では、リトライしません。 ※対応コマンドは「TR3X シリーズ通信プロトコル 説明書」参照。		1
SimpleWrite コマンド 実行時の UID 指定	無効	UID 指定にて SimpleWrite コマンドを送信します。		○
	有効			
自動読み取りモード動 作時のトリガー信号	無効	自動読み取りモードにて、トリガー信号(スイッチ 等)有効の間のみ、読み取り処理を行います。		○
	有効			
ノーリードコマンドの 設定	無効	自動読み取りモードにて RF タグ読み取りエラー の時、「BR」を返します。		○
	有効			
ブザー種別の設定	標準	標準ブザー仕様時に選択します		○
	ブザー音大	大音量ブザー仕様時に選択します ※TR3-N001E(B)のみ有効		
1 ブロック当たりの バイト数	4 バイト	RF タグの 1 ブロックあたりのサイズ (バイト) ※富士通製タグ使用時に「8 バイト」に設定		○
	8 バイト			
RF タグ通信設定	通常設定	対象 RF タグ の選択	Tag-it HF-I、ICODE SLI および My-d	○
	MB89R116 MB89R118		MB89R116/MB89R118 (※1)	
リーダライタの ID (HEX)	0～FF	リーダライタの ID を設定します。レスポンスに ID を付与して応答を返します。 (※2)		0
ICODE SLIX サポート	無効	本設定が有効の場合に ICODE SLIX をサポート ※[S6700 互換モード設定]を「S6700 互換モード」 に設定時に選択可能な設定		○
	有効			

各種設定 2			
設定項目	設定内容		
	設定値	説明	初期値
RF 送信信号設定	起動時 ON	リーダライタの電源投入時にキャリア出力を開始します。	
	起動時 OFF (コマンド受付以降 ON)	リーダライタの電源投入後、最初のコマンド実行時にキャリア出力を開始します。	○
	コマンド実行時以外は常時 OFF	コマンド実行時のみキャリアを出力します。	
My-d 自動識別時のアクセス方式	My-d カスタムコマンド	Myd_Read/Myd_Write を使用して 8 バイト単位でアクセスします。(ページアクセス方式)	○
	ISO15693 オプションコマンド	ReadSingleBlock/WriteSingleBlock などを使用して 4 バイト単位でアクセスします。(ブロックアクセス方式)	
ReadBytes/RDLOOP 系の内部処理	ReadSingleBlock	下記コマンド及び動作モードの内部処理に使用するコマンドを選択します。	○
	ReadMultiBlock	• ReadBytes • RDLOOPCmd • RDLOOP モード	
S6700 互換モード設定	通常		○
	S6700 互換	S6700 シリーズと同等の動作をします。 ※詳細は「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書」参照	
アンテナ機能	LED 機能有効	薄型タイプ SA シリーズアンテナにて、タグデータの読み取り時、または上位コマンド制御によりアンテナ表面上の LED が点灯します。	○
	スイッチ機能有効	ハンディタイプ HA シリーズアンテナにて、手元にあるスイッチの ON/OFF 操作により、タグデータの読み取り制御を行います。	
	LED/SW 機能無効	機能無効 アンテナ切替機能搭載のリーダライタでは LED/スイッチ機能は動作しません。	

※1 MB89R116/MB89R118 用の設定です。
 本設定により、以下の設定内容へ変更されます。
 ・ RF タグ動作モード設定「RF タグ→リーダライタ変調方式：ASK 変調 (シングルサブキャリア)」
 ・ 各種設定 1「1Block 当たりのバイト数：8 バイト」
 MB89R119B/MB89R112 の場合はタグ仕様に合わせて上記設定を個別に行います。
 設定内容・設定方法は「TR3X 通信プロトコル説明書(6.3.1 動作確認済タグ)」を参照ください。

※2 アンテナ切替設定「アンテナ ID 出力：有効」の場合、RF タグデータを読み取ったアンテナ番号 (アンテナ ID) が優先されてレスポンスに付与されるため、リーダライタの ID はレスポンスに付与されません。

第7章 LAN I/F 仕様 (TR3X-LN01)

本章では、LAN インターフェースの仕様、各種設定について説明します。

7.1 LAN インターフェース設定一覧

TR3X-LN01 の LAN インターフェースの各設定値（出荷時設定値）は下表に示すとおりです。
設定内容の確認、および設定変更は、必ず LAN 設定ツール「IPSet2」をご使用ください。

No.	設定項目	LAN 設定パラメータ	出荷時設定
1	Local IP 表示／設定	IP Address	192.168.0.1
2	Mask Address 表示／設定	Mask Length	24
3	Default Route IP 表示／設定	Default Gateway	0.0.0.0
4	無通信監視タイマの Timer 値表示／設定	TCP Keepalive	10sec
5	通信速度 表示／設定	Baud Rate	19200bps
6	送信データのパッキング表示／設定	Packing	Disable
7	パッキング ストア時間表示／設定	Idle Gap Time	5sec
8	Local Port 表示／設定	Local Port	9004
9	Connection 動作の表示／設定	Active Connect	None
10	Foreign IP 表示／設定	Remote Host	0.0.0.0
11	Foreign Port 表示／設定	Remote Port	9004

7.2 LAN インターフェース設定の確認／変更

本節では LAN インターフェース設定の変更方法について説明します。
設定内容の確認／変更は、LAN 設定専用ツール「IPSet2」を使用して行います。

7.2.1 事前準備

- PC のネットワーク設定 (IP アドレス、サブネットマスク) をリーダライタとの通信が可能な設定へ変更します。

[スタートメニュー] - [設定] - [ネットワーク接続] - [ローカルエリア接続のプロパティ]
- [インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ] - [次の IP アドレスを使う]に設定します。

例えば、リーダライタの設定が 192.168.0.1/24 である場合は、PC の設定を 192.168.0.*[任意]/24 などに設定します。

※PCに設定する IP アドレスは、リーダライタを含む他の機器で使用していない番号を設定します。

- PC とリーダライタを LAN ケーブルで接続します。

接続構成	ケーブル種別
ハブ経由で接続する場合	ストレートケーブル
PC とリーダライタを直接接続する場合	クロスケーブル

7.2.2 設定確認・変更

設定専用ツール（IPSet2）を使用して LAN インターフェース設定を確認・変更する手順を解説します。

「7.2.1 事前準備」を確認した上で以下の手順に進めてください。

IPSet2 は、製品付属の CD-ROM に収録されています。

また、最新版の IPSet2 は WEB サイトからダウンロードすることができます。

WEB サイト

URL : https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_utility/

IPSet2 の操作方法詳細は「LAN インターフェース設定ツール IPSet2 取扱説明書」を参照ください。

<手順 1>IPSet2 の起動

IPSet2.exe（実行ファイル）を起動するとネットワーク内に接続されたリーダライタ一覧が表示されます。

表示されない場合は、リーダライタが正しく接続されていることを再度ご確認ください、キーボードの F2 キーまたは File (F) メニューの Refresh (F5) から一覧を再表示してください。

Refresh を複数回試行しても表示されない場合、以下の操作をお試しください。

- ・ Windows ファイアウォールを無効にいただき、再度操作を行う。
- ・ 複数の LAN 機器に対しての設定変更については、IP が探せないことがありますので、基本的には、1 対 1 の関係になる環境にて設定をお願いします。
- ・ PC が複数の IP アドレスを登録している場合は、ネットワークのクラスが異なるため、リーダライタの IP アドレスが探せないことがあります。
その際は、Help(H) の Interface(I)にて、最適なクラスをお試しください。



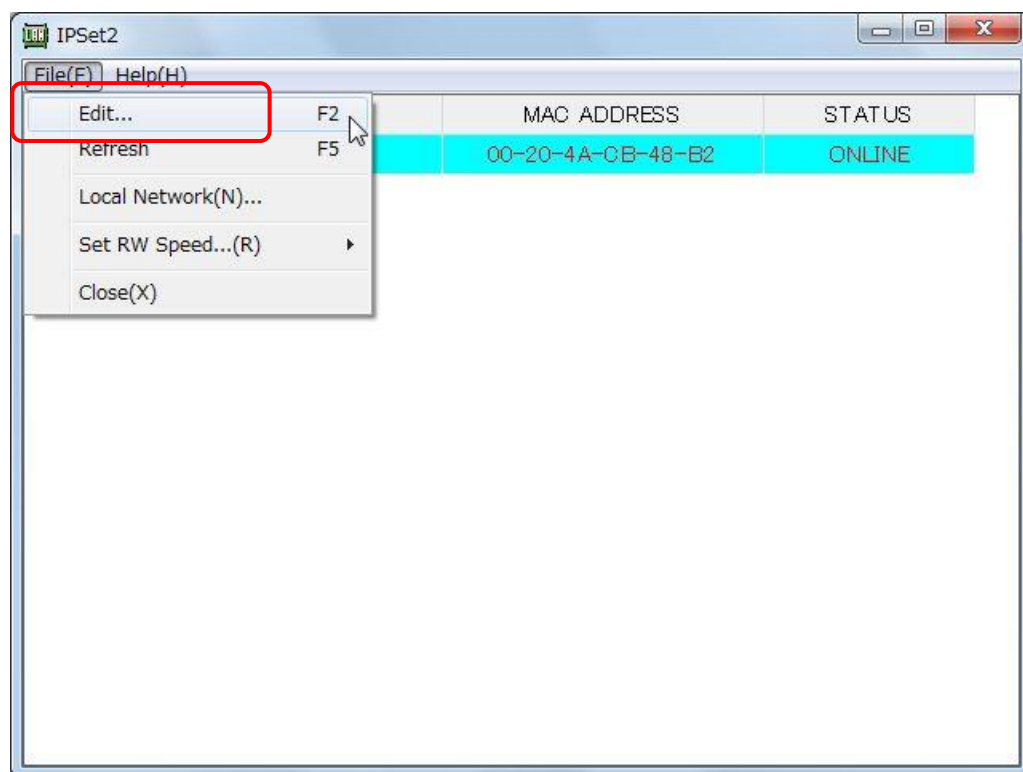
STATUS「OFFLINE」のリーダライタと通信する場合は、PC のネットワーク設定（IP アドレス・サブネットマスク）をリーダライタとの通信が可能な状態に設定してください。

PC の IP アドレスを変更した場合は IPSet2 を再起動してください。

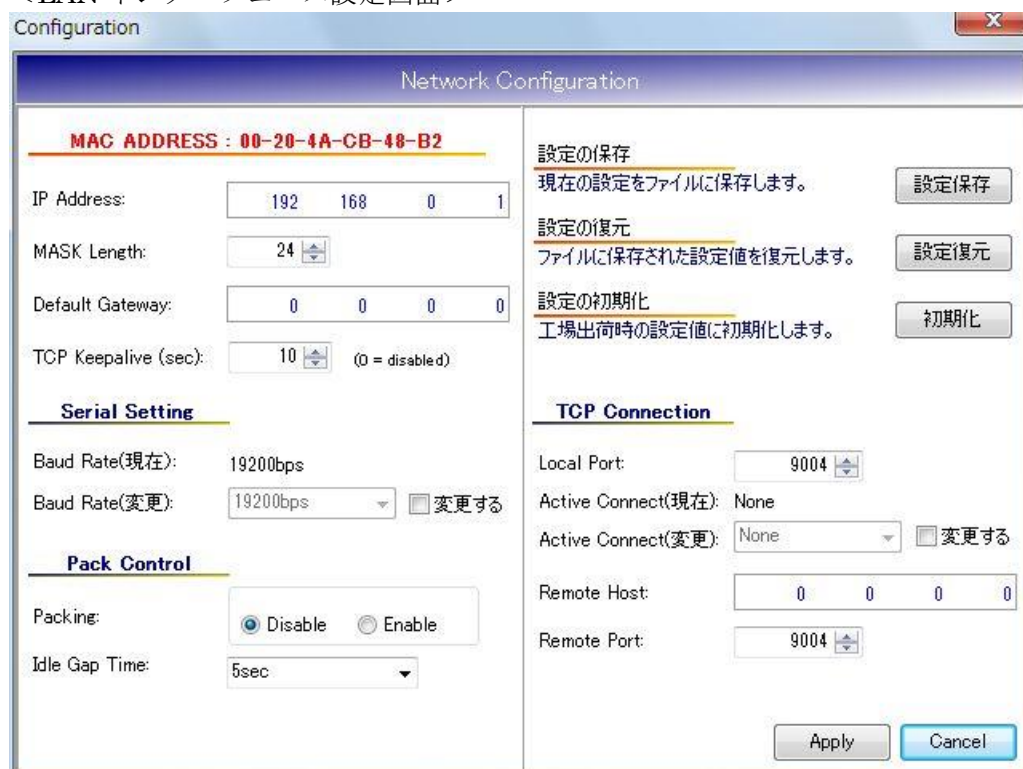
<手順 2>LAN インターフェース設定の確認

STATUS「ONLINE」のリーダライトは、以下の方法で LAN インターフェース設定画面を開くことができます。

- ① 一覧の行をダブルクリック
- ② 一覧の行を選択（赤字表示）した状態でキーボードの F2 キー
- ③ 一覧の行を選択（赤字表示）した状態で File(F) メニューの Edit (F2)



<LAN インターフェース設定画面>



<手順 3> LAN インターフェース設定の変更

各パラメータの変更内容は、[Apply]ボタンをクリックすることで確定します。

[Apply]ボタンをクリックせずに画面を閉じた場合は、変更内容が無効になります。

Configuration

Network Configuration

MAC ADDRESS : 00-20-4A-CB-48-B2

IP Address: 192 168 0 1

MASK Length: 24

Default Gateway: 0 0 0 0

TCP Keepalive (sec): 10 (0 = disabled)

Serial Setting

Baud Rate(現在): 19200bps

Baud Rate(変更): 19200bps ☐ 変更する

Pack Control

Packing: ☒ Disable ☐ Enable

Idle Gap Time: 5sec

TCP Connection

Local Port: 9004

Active Connect(現在): None

Active Connect(変更): None ☐ 変更する

Remote Host: 0 0 0 0

Remote Port: 9004

設定の保存
現在の設定をファイルに保存します。

設定の復元
ファイルに保存された設定値を復元します。

設定の初期化
工場出荷時の設定値に初期化します。

① IP Address

リーダライタの IP アドレスを入力します。

【注意】 IP アドレス「a. b. c. d」において、d に入力可能な値の範囲は「1～254」です。
255 を設定した場合、動作復旧不可となり、センドバック修理となる可能性があります。

② Mask Length

リーダライタの IP アドレスに対するサブネットマスク長を入力します。

サブネットマスク 255. 255. 255. 0 の場合は 24 です。

入力可能な値の範囲は「1～31」です。

③ Default Gateway

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。

使用しない場合は 0. 0. 0. 0 を入力します。

④ TCP Keepalive (sec)

キープ・アライブ機能の動作間隔を秒単位で入力します。

無応答状態が 7 回続いた場合、リーダライタは接続を破棄します。

使用しない場合は 0 を入力します。入力可能な値の範囲は「0～65」です。

⑤ Baud Rate

リーダライタ内部の LAN インターフェース基板－リーダライタモジュール間のデータ転送速度を選択します。

Baud Rate (現在)と Baud Rate (変更)に表示される値が異なる場合がありますが、本ソフトウェアから設定可能な値は 9600bps、19200bps、38400bps のいずれかです。

本設定値を変更する場合は、右隣の「変更する」にチェックを入れてください。未チェックの場合、設定値は変更されません。

- 9600、19200、38400bps を選択した場合は、LAN インターフェース基板側のみ変更します。

- R/W module speed を選択した場合は、リーダライタモジュール側の通信速度を調査し、LAN インターフェース基板側をその設定に合わせます。

※この処理には最大 1 分程度の時間がかかります。

Configuration

Network Configuration

MAC ADDRESS : 00-20-4A-CB-48-B2

IP Address: 192 168 0 1

MASK Length: 24

Default Gateway: 0 0 0 0

TCP Keepalive (sec): 10 (0 = disabled)

Serial Setting

Baud Rate(現在): 19200bps

Baud Rate(変更): 19200bps [▼] ☒ 変更する

9600bps

19200bps

38400bps

R/W module speed

Pack Control

Packing: ☒ Disable ☐ Enable

Idle Gap Time: 5sec

設定の保存

現在の設定をファイルに保存します。 [設定保存]

設定の復元

ファイルに保存された設定値を復元します。 [設定復元]

設定の初期化

工場出荷時の設定値に初期化します。 [初期化]

TCP Connection

Local Port: 9004

Active Connect(現在): None

Active Connect(変更): None ☐ 変更する

Remote Host: 0 0 0 0

Remote Port: 9004

[Apply] [Cancel]

① Packing

送信データのパッキング有無を選択します。

リーダライタ内部の LAN インターフェース (XPort) は、リーダライタモジュールからのシリアルデータを順次上位側へ転送しますが、設定パラメータ (Disable/Enable) の違いにより、送信タイミングが異なります。

[Disable] ※出荷時設定

XPort 内へデータが送信されると即時転送処理を行います。

- 連続したシリアルデータであっても、10 数 ms 毎に分割してパケットを送信します。
- 短いデータでもパケットが分割される場合があります。

[Enable]

「Idle Gap Time」にて指定した時間だけシリアルデータが途絶えた場合、その時点でバッファに溜まっているデータを 1 パケットとして送信します。

- ② 自動読み取りモード(連続インベントリモード他)など「Idle Gap Time」より短い間隔でリーダライタからレスポンスが上がってくる場合は、複数のレスポンスが 1 パケットに纏まって送信されるため、応答が返るまでの時間がかかなり遅延する場合があります。

③ Idle Gap Time

Packing「Enable」設定時に参照されます。

シリアルデータを受信している状況において、データが途絶えた時間が「Idle Gap Time」を超えるとパケットを送信します。

12ms、52ms、250ms、5sec(出荷時設定)のいずれかを選択します。

なお、Disable 設定時は、本設定は送信タイミングに影響しません。

④ Local Port

TCP/IP 通信時のポート番号を入力します。

入力可能な値の範囲は「1025～65535」です。

⑤ Active Connect

リーダライタから PC への自動接続を行う場合、Auto Start を選択します。

リーダライタが PC からの接続を待ち受ける接続方式の場合は、None を選択します。

⑥ Remote Host

Active Connect「Auto Start」時の接続先 IP アドレスを入力します。

使用しない場合は 0.0.0.0 を入力します。

⑦ Remote Port

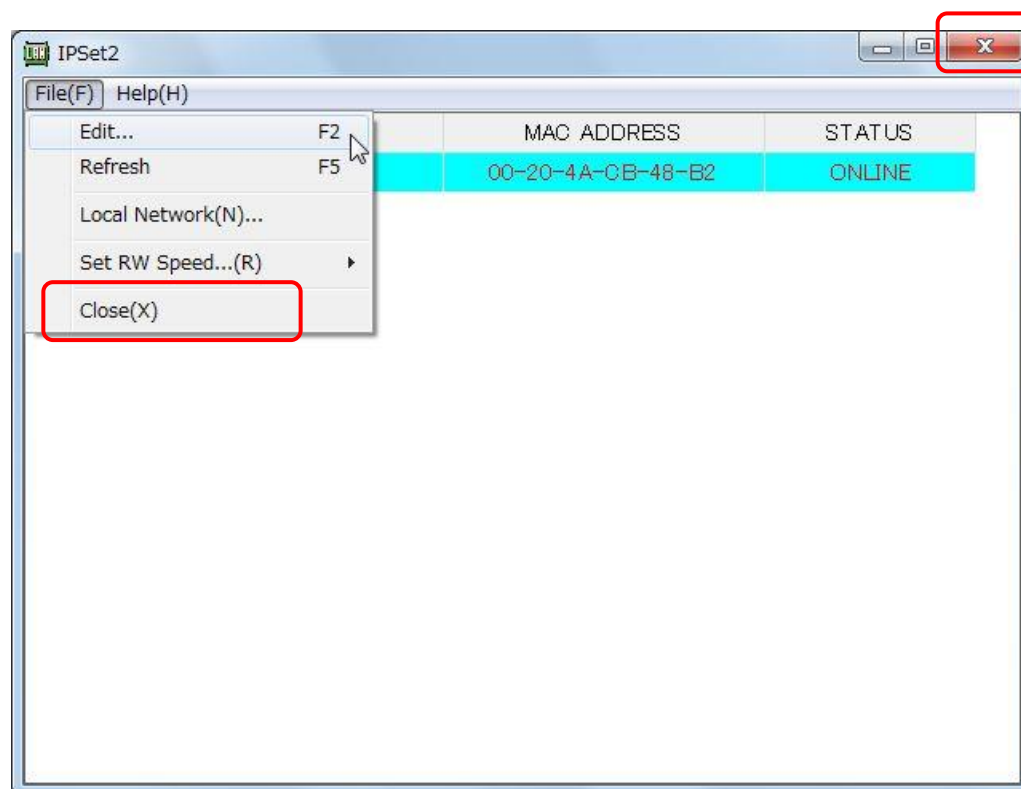
Active Connect「Auto Start」時の接続先 TCP ポート番号を入力します。

使用しない場合は 0 を入力します。

入力可能な値の範囲は「0～65535」です。

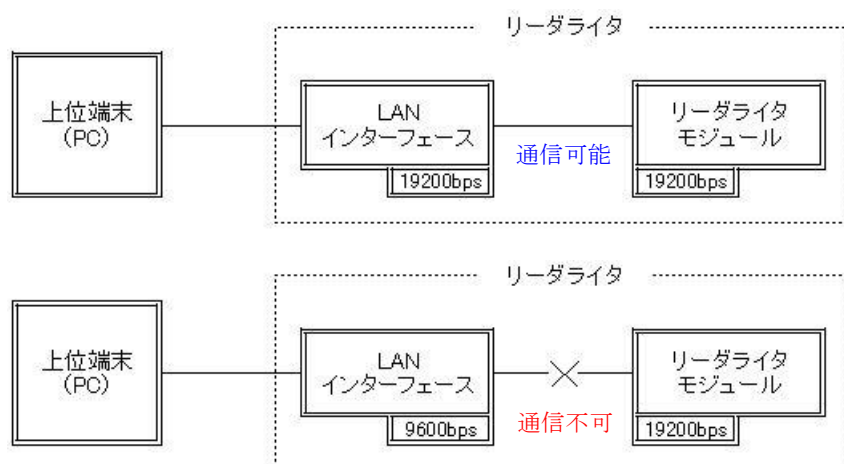
<手順 4>IPSet2 の終了

File(F)メニューの Close、または右上「×」にて終了します。

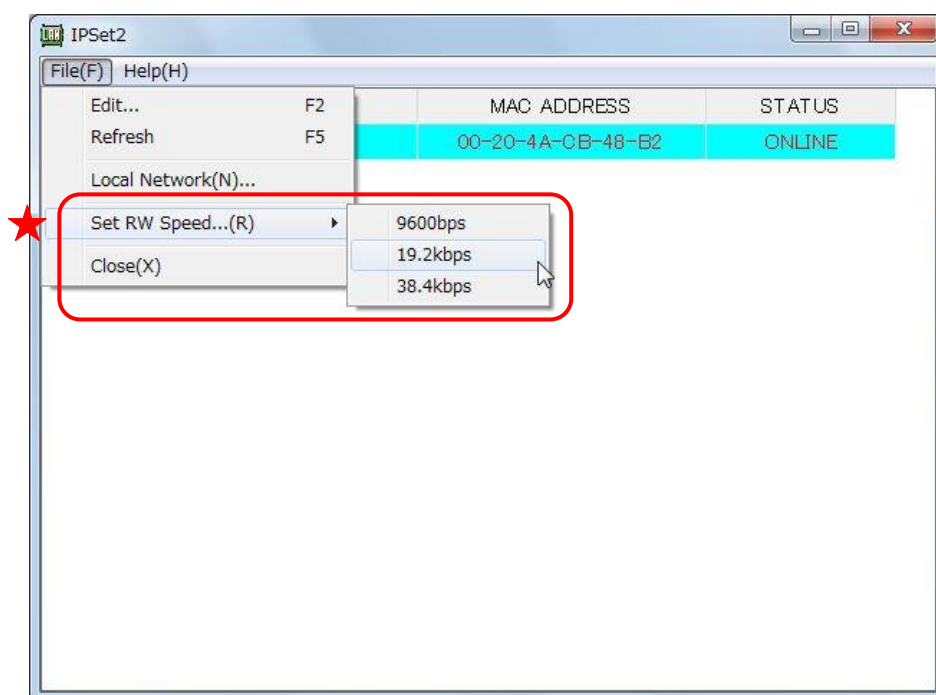


7.2.3 通信速度(Baud Rate)変更

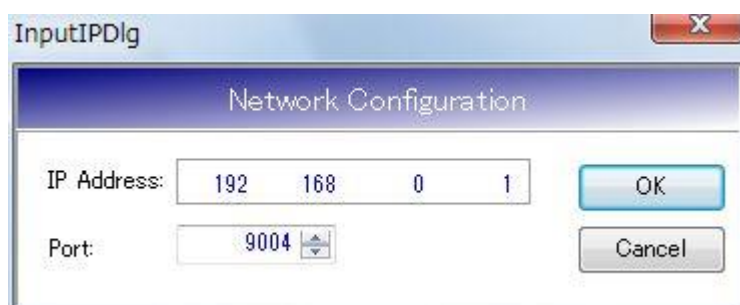
リーダライタ内部の LAN インターフェース基板－リーダライタモジュール間の通信速度 (Baud Rate) が一致している場合に正常な通信が可能となります。
この通信速度を変更する手順を説明します。



IPSet2 を起動後、File (F) メニューの [Set RW Speed (R)] を選択し、変更したい Baud Rate (9600bps、19.2kbps、38.4kbps) を選択します。



IP アドレス／ポート番号を設定し [OK] ボタンを押下します。
本操作により、リーダライタモジュール側、LAN インターフェース基板側それぞれの通信速度を同時に変更します。



7.2.4 初期化

設定専用ツール（IPSet2）を使用して LAN インターフェース設定を初期化する手順を説明します。
設定値は「7.1 LAN インターフェース設定一覧」を参照ください。
ただし、Baud Rate は変更されませんのでご注意ください。

IPSet2 起動後、ネットワーク設定画面にて初期化操作を行います。

The 'Network Configuration' window displays the following settings:

- MAC ADDRESS :** 00-20-4A-CB-48-B2
- IP Address:** 192.168.0.1
- MASK Length:** 24
- Default Gateway:** 0.0.0.0
- TCP Keepalive (sec):** 10 (0 = disabled)
- Serial Setting**
 - Baud Rate(現在):** 19200bps
 - Baud Rate(変更):** 19200bps ☐ 変更する
- Pack Control**
 - Packing:** ☒ Disable ☐ Enable
 - Idle Gap Time:** 5sec
- TCP Connection**
 - Local Port:** 9004
 - Active Connect(現在):** None
 - Active Connect(変更):** None ☐ 変更する
 - Remote Host:** 0.0.0.0
 - Remote Port:** 9004

On the right side, there are three sections with buttons:

- 設定の保存** (Save Settings): 現在の設定をファイルに保存します。 (Save current settings to file.)
- 設定の復元** (Restore Settings): ファイルに保存された設定値を復元します。 (Restore settings saved to file.)
- 設定の初期化** (Initialize Settings): 工場出荷時の設定値に初期化します。 (Initialize to factory default settings.) The '初期化' button is highlighted with a red rectangle.

At the bottom right are 'Apply' and 'Cancel' buttons.

The 'Information' dialog box contains the following text:

工場出荷時の設定値に初期化します。
ただし、Baud Rateは変更されません。

Buttons: OK, キャンセル (Cancel)

[OK] ボタンをクリックすると初期化処理が実行されます。
[キャンセル] ボタンをクリックすると何も処理を行いません。

初期化が成功すると次の確認メッセージが表示されます。

The 'success' dialog box contains the following text:

設定値を初期化しました。

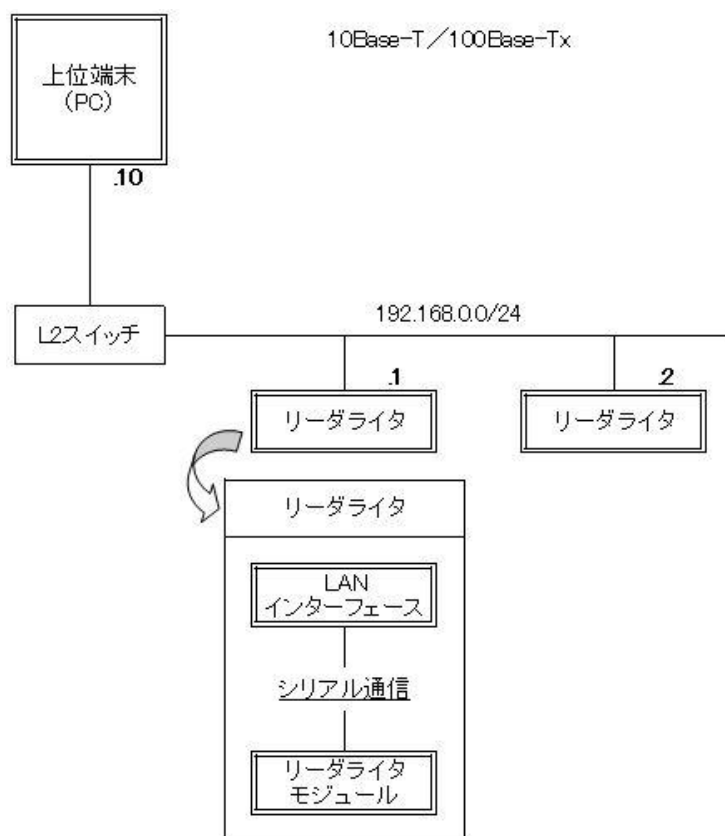
Button: OK

7.3 LAN 設定パラメータ (IPSet2)

ここでは、各種 LAN 設定パラメータの機能について説明します。
LAN 設定ツール IPSet2 を使用して設定・変更を行います。

7.3.1 Active Connect (通信方式の選択)

<システム構成例>



TCP Connection

【Active Connect : None】

リーダライタが上位端末(PC)からの接続を待ち受ける場合に選択します。

<関連パラメータ (出荷時設定) >

Active Connect : None
IP Address : 192.168.0.1
Mask Length : 24
Local Port : 9004

【Active Connect : Auto Start】

リーダライタから PC への自動接続を行う場合に選択します。

リーダライタの電源投入後、設定されている上位端末(PC)の IP アドレス (Remote Host)、ポート番号 (Remote Port) に対して、自動的にコネクション開設要求を行います。

<関連パラメータ (出荷時設定) >

Active Connect : None ⇒ 「Auto Start」へ設定します
Remote Host : 0.0.0.0 ⇒ 接続対象 PC の IP アドレスを設定します
Remote Port : 9004

7.3.2 TCP Keepalive（接続有効確認）

【TCP Keepalive】

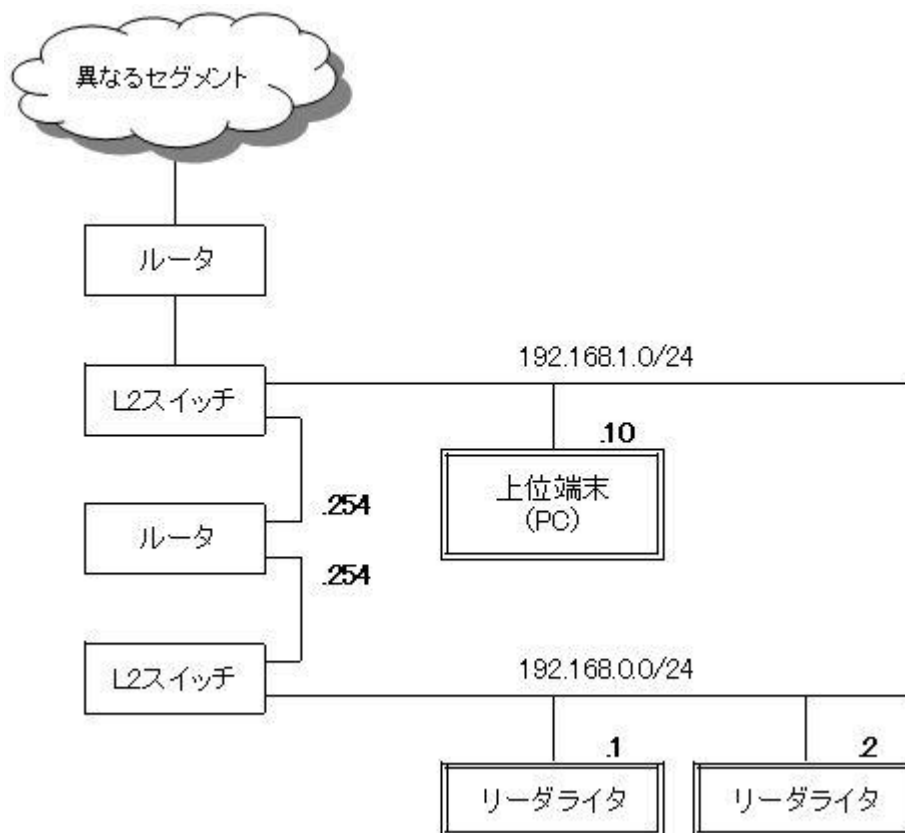
キープ・アライブ機能の動作間隔を秒単位で設定します。
ネットワーク上で接続が有効であることを確認する機能です。
無応答状態が7回続いた場合、リーダライタは接続を破棄します。
使用しない場合は0(=disabled)を入力します。入力可能な値の範囲は「0～65」です。

< 関連パラメータ（出荷時設定） >

Keepalive : 10(s)

7.3.3 Default Gateway（ルータを経由した通信）

< システム構成例 >



【Default Gateway】

上位端末(PC)とリーダライタがルータを経由して異なるセグメント間で通信を行う場合は、デフォルトゲートウェイの設定を行います。
使用しない場合は0.0.0.0を入力します。

< 関連パラメータ（出荷時設定） >

Default Gateway : 0.0.0.0

7.3.4 Packing (データパケットの送信タイミング)

Pack Control

【Packing : Disable/Enable】

送信データのパッキング有無を選択します。

リーダライタ内部の LAN インターフェース (XPort) は、リーダライタモジュールからのシリアルデータを順次上位側へ転送しますが、設定パラメータ (Disable/Enable) の違いにより、送信タイミングが異なります。

[Disable] ※出荷時設定

XPort 内へデータが送信されると即時転送処理を行います。

- ・連続したシリアルデータであっても、10 数 ms 毎に分割してパケットを送信します。
- ・短いデータでもパケットが分割される場合があります。

[Enable]

「Idle Gap Time」にて指定した時間だけシリアルデータが途絶えた場合、その時点でバッファに溜まっているデータを 1 パケットとして送信します。

自動読み取りモード(連続インベントリモード他)など Idle Gap Time より短い間隔で R/W からレスポンスが上がってくる場合は、複数のレスポンスが 1 パケットに纏まって送信されるため、応答が返るまでの時間がかなり遅延する場合があります。

【Idle Gap Time : 12ms/52ms/250ms/5s】

Packing 「Enable」 設定時に参照されます。

シリアルデータを受信している状況において、データが途絶えた時間が「Idle Gap Time」を超えるとパケットを送信します。

12ms、52ms、250ms、5sec(出荷時設定) のいずれかを選択します。

なお、Disable 設定時は、本設定は送信タイミングに影響しません。

< 関連パラメータ (出荷時設定) >

Packing : Disable

Idle Gap Time : 5s

7.4 トラブルシューティング

リーダライタと通信ができないなどのトラブルの際の対処方法について、説明します。
ここでは、よくある以下のトラブル事例について説明します。

- ・リーダライタの IP アドレスがわからなくなった
- ・リーダライタとの通信ができない
- ・リーダライタからのコマンドのレスポンスがうまく受け取れない

7.4.1 リーダライタの IP アドレスがわからなくなった

＜対処方法＞

LAN 設定ツール IPSet2 にて確認・変更してください。

ソフトウェアは、付属 CD-ROM または弊社 WEB サイトから入手できます。

ここでは、リーダライタおよび PC の IP アドレスとサブネットマスクが以下の設定である場合を例に説明します。

リーダライタの IP アドレス（現在不明）	192. 121. 6. 8
リーダライタの IP アドレスの変更先	192. 168. 0. 1
PC に設定する IP アドレス	192. 168. 0. 3

(1) リーダライタと PC を接続します。

PC とリーダライタを LAN クロスケーブルで直接接続します。

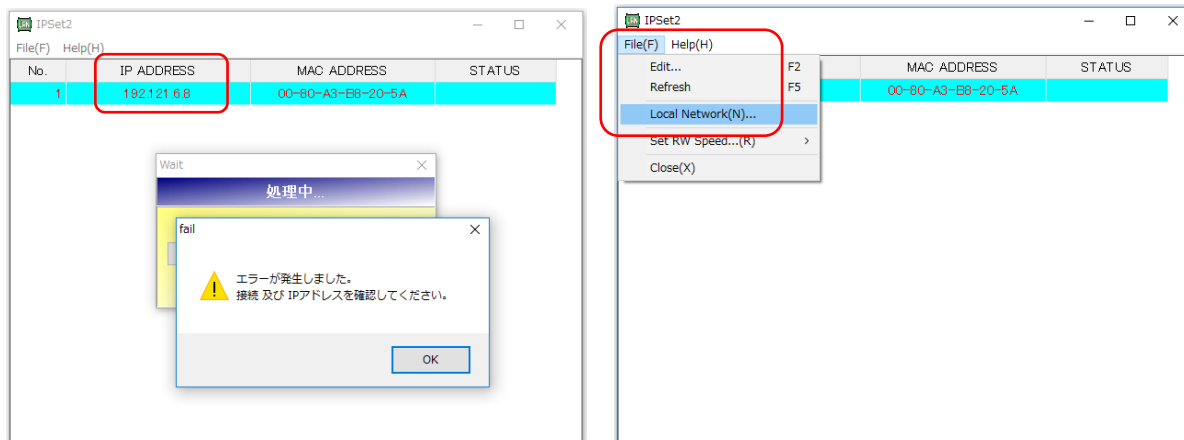
※ハブ経由で接続する場合は、LAN ストレートケーブルを使用します。ハブ経由で接続した場合、お客様のご使用の PC やネットワーク環境のファイアウォールの設定によっては、リーダライタの IP アドレスが表示されないことがありますので、PC とリーダライタを直接接続することを推奨します。

(2) IPSet2 を起動する。

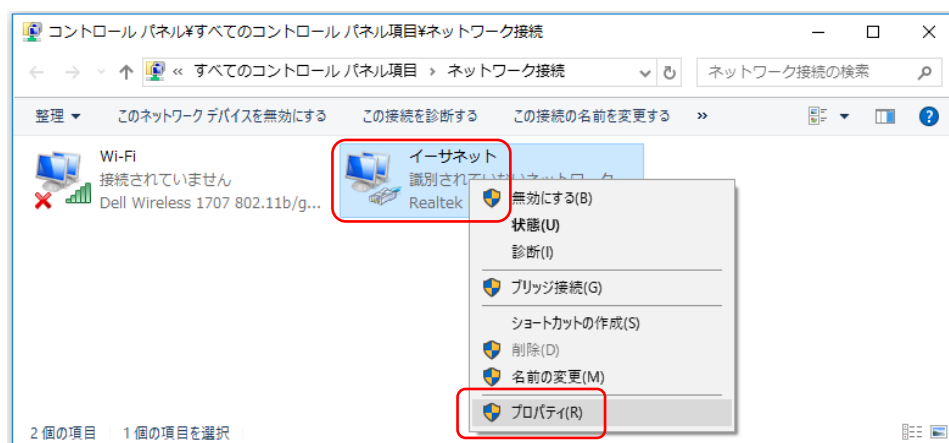
ソフトウェアは、付属 CD-ROM または弊社 WEB サイトから入手できます。

ショートカットアイコン  をダブルクリックすると「IPSet2」が起動します。

IPSet2 が起動すると、PC に接続されている機器の IP アドレスが表示されます。
以下の例では、リーダライタの IP アドレスは「192.121.6.8」であることが確認できます。
[File] > [Local Network(N)...] より、PC のネットワーク接続画面を開くことができます。



「ネットワーク接続」画面の「イーサネット」のプロパティを開きます。
※ご使用の OS 環境によっては、「ローカルエリア接続」と表示される場合があります。



インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)のプロパティを開きます。

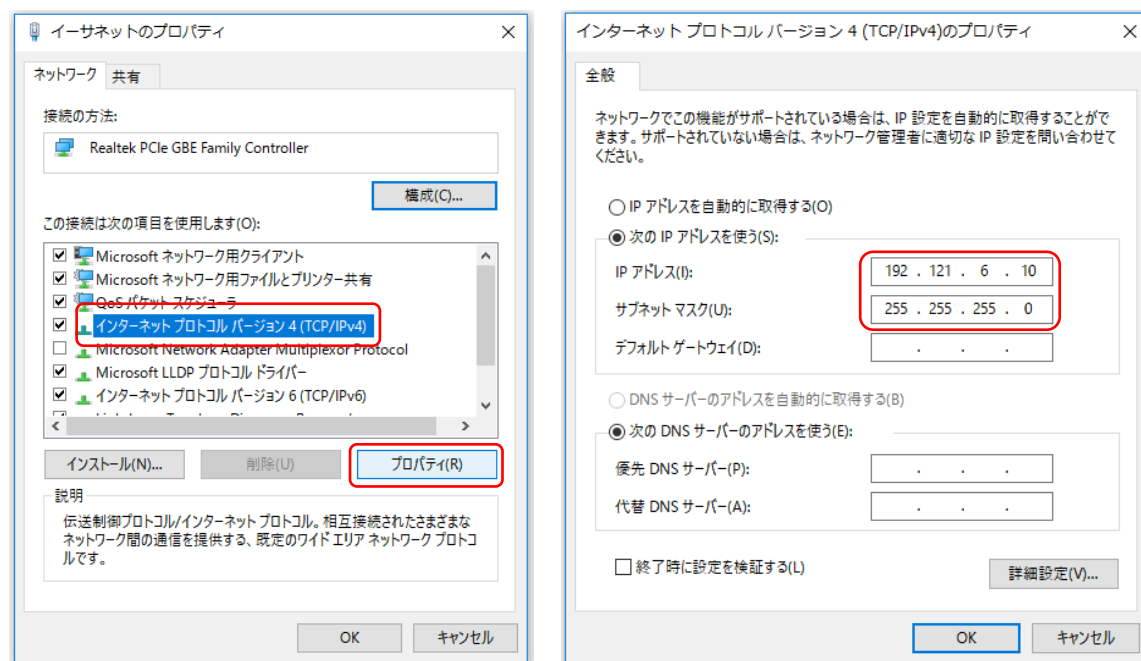
IP アドレス入力欄に「192. 121. 6. *** (任意)」を入力します。

事前にコマンドプロンプトより Ping コマンドを実行し、リーダライタを含む他の機器に割り当てられていない番号を使用してください。

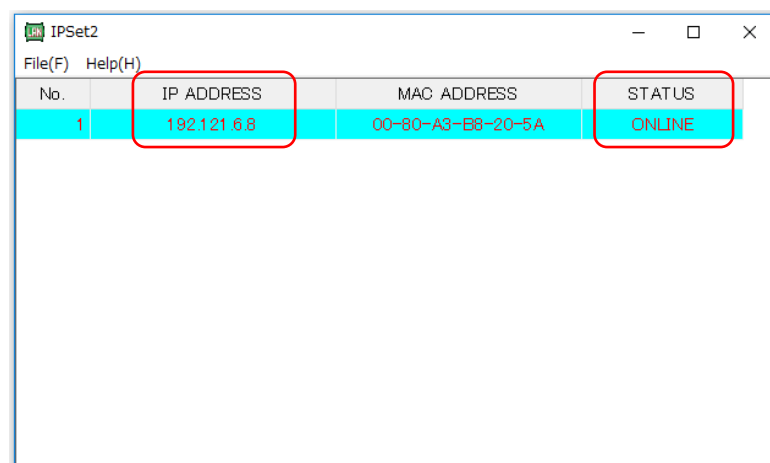
ここでは、例として PC の IP アドレスに「192. 121. 6. 10」を設定しています。

サブネットマスク入力欄に「255. 255. 255. 0」を入力します。

[OK] ボタンをクリックすることで入力した設定値が反映されます。



IPSet2 を再起動し、リーダライタの IP アドレス「192. 121. 6. 8」の STATUS が「ONLINE」に変わったことを確認します。



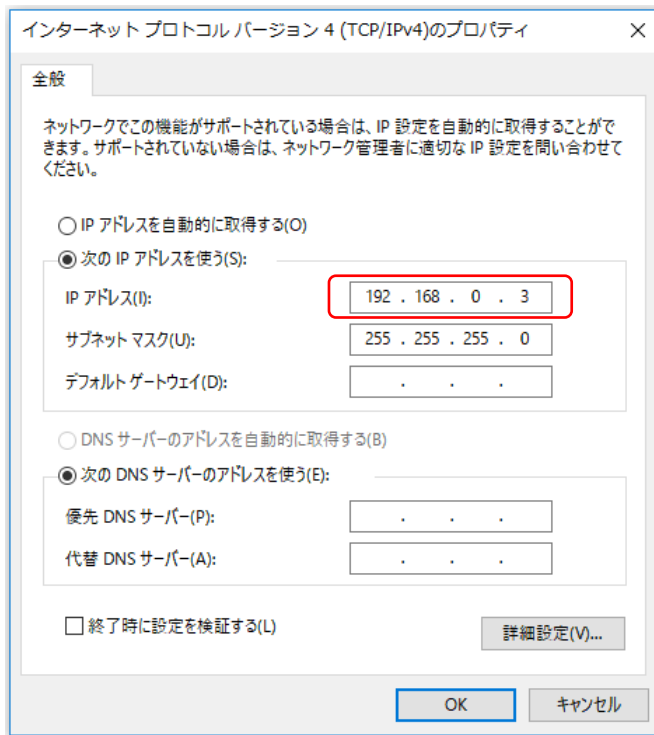
IPSet2 の初期画面で、リーダライタの IP アドレスをダブルクリックすることで、次頁の「Network Configuration」の画面が開きます。

リーダライタの現在の IP アドレス(192.121.6.8)を、変更したい IP アドレス(192.168.0.1)に書き換え、「Apply」ボタンで確定します。

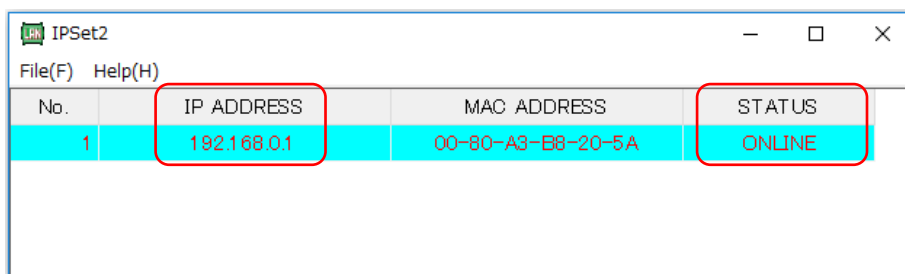
The screenshot shows the 'Configuration' window with the 'Network Configuration' tab selected. The 'MAC ADDRESS' is 00-80-A3-B8-20-5A. The 'IP Address' field is highlighted with a red box and contains the value 192.121.6.8. Other fields include MASK Length (24), Default Gateway (0.0.0.0), and TCP Keepalive (10). The 'Serial Setting' section shows Baud Rate (19200bps) and Packing (Disable). The 'Pack Control' section shows Idle Gap Time (12ms). The 'TCP Connection' section shows Local Port (9004), Active Connect (None), Remote Host (0.0.0.0), and Remote Port (9004). Buttons for '設定の保存' (Save Settings), '設定の復元' (Restore Settings), '設定の初期化' (Initialize Settings), '設定保存' (Save Settings), '設定復元' (Restore Settings), and '初期化' (Initialize) are on the right. 'Apply' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

The screenshot shows the same 'Configuration' window, but the 'IP Address' field is now 192.168.0.1, highlighted with a red box. The 'Apply' button at the bottom right is also highlighted with a red box, indicating it should be clicked to confirm the change.

PC の IP アドレスを元の設定に戻します。
下記の例では、192.168.0.3 に戻しています。



IPSet2 を再起動します。
リーダライタの IP アドレスが変更され、STATUS が「ONLINE」になったことを確認します。



以上の設定により、リーダライタの IP アドレスを確認・変更することができます。

7.4.2 リーダライタとの通信ができない

<対処方法>

(1) LAN ケーブルの接続を確認します。

上位機器とリーダーライタを「直接接続」する場合、LAN ケーブルはクロスケーブルを使用します。
上位機器とリーダーライタを「ハブ経由で接続」する場合、LAN ケーブルはストレートケーブルを使用します。

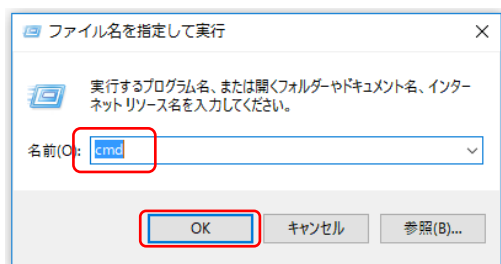
(2) Ping コマンドを使用して、リーダーライタと PC 間の通信経路状況を確認します。

ここでは、リーダーライタと PC の IP アドレスが以下の場合を例に説明します。

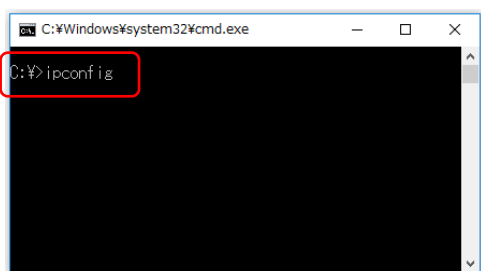
※リーダーライタの IP アドレスが不明な場合は、「7.4.1 リーダライタの IP アドレスがわからなくなった」をご参照ください。

リーダーライタの IP アドレス	192.168.0.1
PC に設定する IP アドレス	192.168.0.3

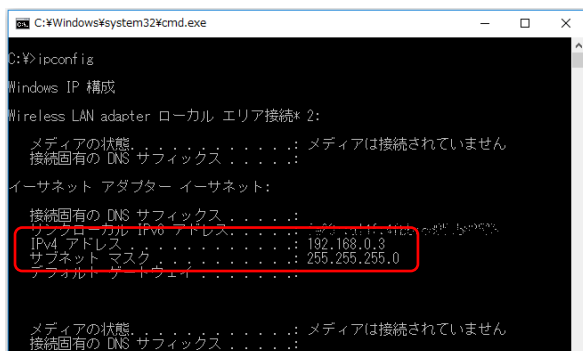
PC の画面左下の Windows キーを右クリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択し、コマンド「cmd」を入力し、「OK」ボタンを押します。



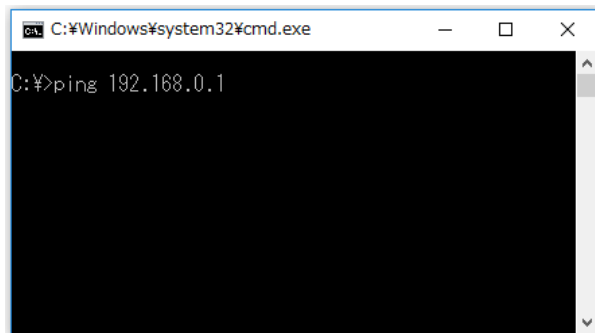
コマンドプロンプトが開きますので、「ipconfig」を入力し、Enter キーを押します。



PC の IPv4 アドレスを確認します。以下の例では、PC の IPv4 アドレスは、「192.168.0.3」であることが分かります

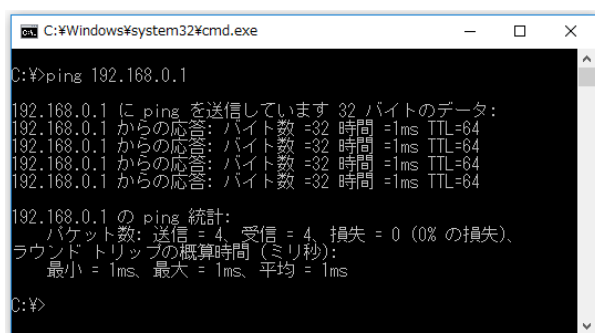


リーダライタの IP アドレス「192.168.0.1」宛てに Ping テストを実行します。
「ping 192.168.0.1」を入力し、Enter キーを押します。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
C:\>ping 192.168.0.1
```

<Ping テスト : OK>の場合



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
C:\>ping 192.168.0.1
192.168.0.1 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.0.1 から応答: バイト数 =32 時間 =1ms TTL=64
192.168.0.1 から応答: バイト数 =32 時間 =1ms TTL=64
192.168.0.1 から応答: バイト数 =32 時間 =1ms TTL=64
192.168.0.1 から応答: バイト数 =32 時間 =1ms TTL=64
192.168.0.1 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4, 受信 = 4, 損失 = 0 (0% の損失),
ラウンドトリップの概算時間 (ミリ秒):
    最小 = 1ms, 最大 = 1ms, 平均 = 1ms
C:\>
```

リーダライタ (IP アドレス : 192.168.0.1) から応答が返ってきます。

<Ping テスト : OK>の場合の対処方法

■ LAN インターフェースボードとリーダライタモジュール間の通信スピードの不整合
⇒ 「7.2.3 通信スピード (Baud Rate) 変更」 をご参照ください。

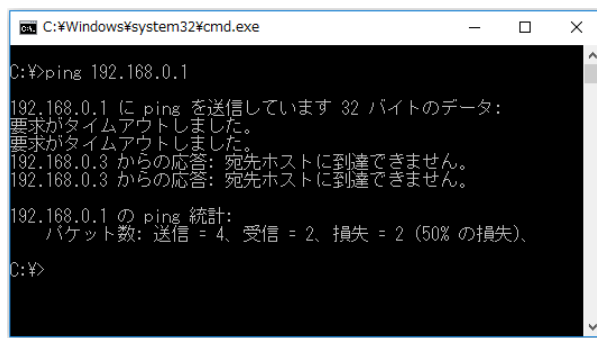
■ ハーフコネクションの確認
アプリケーションがコネクションのクローズ処理を行うことなく、終了した場合などにリーダライタはハーフコネクション状態 (※) になります。この状態のリーダライタは新規の TCP 接続を行うことができません。
アプリケーションの再起動、リーダライタの電源再起動をお試しください。

※ハーフコネクション

2 点間の通信において、一方のみのコネクションが開放されている状態を示します。

■ 上位機器のファイアウォール設定の確認
ファイアウォールソフトの設定によって、リーダライタとの通信ポートが遮断されていないか確認します。

< Ping テスト : NG > の場合



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
C:\>ping 192.168.0.1
192.168.0.1 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
要求がタイムアウトしました。
要求がタイムアウトしました。
192.168.0.3 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
192.168.0.3 からの応答: 宛先ホストに到達できません。

192.168.0.1 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4、受信 = 2、損失 = 2 (50% の損失)、
C:\>
```

192.168.0.1 から応答が返ってきません。

「要求がタイムアウトしました。」もしくは「宛先ホストに到達できません。」が表示されます。

< Ping テスト : NG > の場合の対処方法

LAN 設定ツール IPSet2 を使用して、リーダライタの LAN インターフェース設定値 (IP アドレス等) に誤りがないことを確認してください。

7.4.3 リーダライタからのコマンドのレスポンスがうまく受け取れない

Packing の設定「参照：7.3.4 Packing（データパケットの送信タイミング）」により、リーダーライタからのレスポンスが複数パケットに分割される場合があります。

上位システム側の受信処理によっては、レスポンスが分割されると、受信できない場合がある為、以下の点についてご確認ください。

- ・「Packing」設定を「Enable」に設定変更することでリーダーライタからのレスポンスを正しく受信できるようになる場合があります。Enable に変更する場合、「IdleGapTime=12ms」を推奨します。

【Packing : Disable】

連続したデータを約 12ms 毎の時間で区切り、1 パケットとして送信します。

Baud Rate が 19200bps の場合、1 バイトの送信にかかる時間は約 0.5ms となるため、

1 パケット（12ms 分）は約 24 バイトの送信になります。

【Packing : Enable】

LAN タイプのリーダーライタは内部のリーダーライタモジュールから送信されたレスポンスデータを TCP/IP のパケットに変換して上位に送信しますが、リーダーライタモジュールから送信されたレスポンスデータが「Idle Gap Time」に設定した時間以上途切れるまでデータをバッファリングし、設定した時間以上途切れた場合に、それまでバッファリングしたデータを 1 つのパケットデータとして上位に送信します。

1 パケットの最大データ数は 1400 バイトとなりますので、データが設定時間以上途切れず連続で上がってくる場合、1400 バイト分の複数のレスポンスを 1 パケットとして送信する可能性があります。

特に、自動読み取りモード（連続インベントリモードなど）を使用する場合、複数のレスポンスが同一パケットに纏まってしまふことが考えられ、レスポンスの遅延にご注意ください。

自動読み取りモードの場合は、「読み取りモード：1 回読み取り」に設定することで、余分な送信パケットを抑えることが可能です。

第8章 保守と点検

本章では、本製品の保守と点検などについて説明いたします。

8.1 保守と点検

本製品は、半導体などの電子部品を主に使用しています。そのため、長期にわたり安定した動作が図れますが、環境や使用条件によっては下記に示すような不具合が予想されます。

- ・ 過電圧、過電流による素子の劣化
- ・ 周囲温度が高い場所における長期的ストレスによる素子の劣化
- ・ 湿度、粉塵による絶縁性の劣化やコネクタの接触不良
- ・ 腐食性ガスによるコネクタの接触不良素子の腐食

本製品を最良の状態で使用するために、日常あるいは定期的に点検を実施してください。

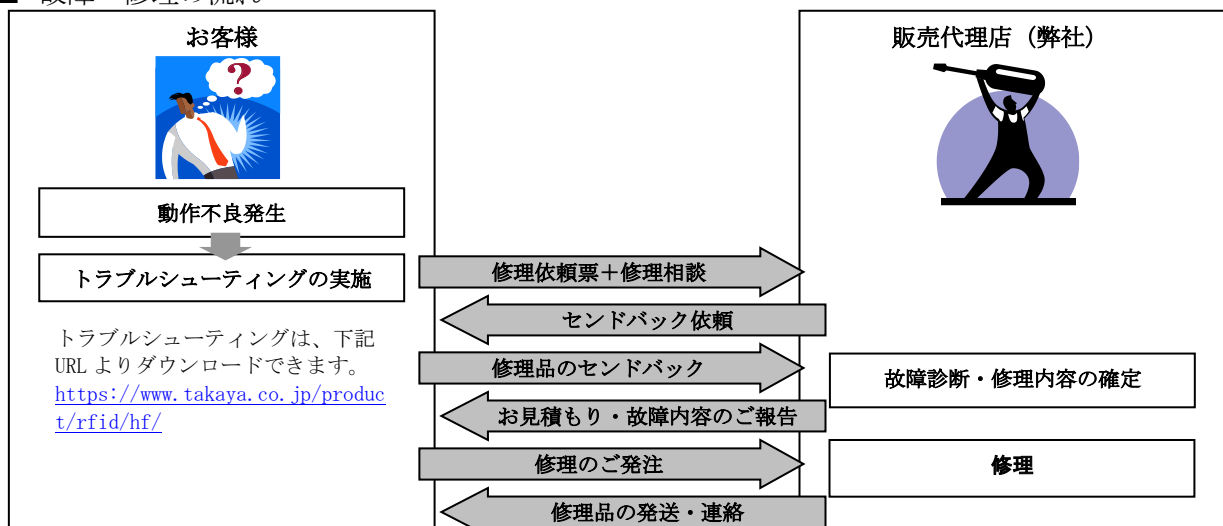
項目		点検内容	判定基準
周囲環境	温度	周囲温度範囲	0～40℃
	湿度	周囲湿度範囲	30～80%RH（結露無きこと）
	粉塵	ほこりが付着していないか	無きこと。
	腐食性ガス	金属・アルミ塗装などに腐食はないか	無きこと。
電源電圧	入力電圧	電圧のチェック	入力電圧 18.0V 時：DC+18.0V±10%
	電圧変動	急激な電圧上昇や下降の症状はないか	
外観	本体	ケースの割れやゆがみ	割れやゆがみ無きこと。
取り付け状態	本体	ネジの緩み	緩み無きこと。
電源投入	動作	動作の確認	正常に動作していること。

8.2 保証とサービス

■ 保証規定

保証期間
納入後1年間
保証範囲
●上記保証期間中に弊社の責任により発生した故障の場合は、故障品の修理または代替品の提供を無償でさせていただきます。ただし、保証期間内であっても下記の場合は有償となります。 1. カタログまたは取扱説明書や仕様書あるいは別途取り交わした仕様書などに記載されている以外の条件・環境・取り扱いによる障害 2. 本製品以外の原因の場合 3. 弊社以外による改造または修理による場合 4. 故意または重大な過失による障害 5. 弊社出荷時の科学・技術の水準では予見できなかった場合 6. その他、天災、災害など弊社側の責ではない原因による場合 7. お買い上げ明細書類のご提示の無い場合 8. 製造番号の確認できないもの 9. お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムに起因する障害 10. 消耗品交換（ケーブル等） ●保証期間を超える製品の修理は有償となります。
対応窓口
販売代理店
修理方法
センドバック（詳細は、故障・修理の流れを参照してください）
運送費負担
修理依頼時：お客様 返送時：弊社
修理品の保証期間
修理品返送日より6ヶ月 ※ただし、修理個所以外の故障については、修理品の保証期間の適用外となります。
制限事項
●本製品に起因して生じた特別損害、間接損害、または消極損害に関しては、弊社はいかなる場合も責任を負いません。お客様の作成されたプログラム、またそれにより生じた結果について弊社は責任を負いません。 ●上記保証内容は日本国内での取引および使用が前提です。日本国外での使用は補償の対象となりませんので、ご注意ください。

■ 故障・修理の流れ



修理依頼票

修理の際は本紙にご記入のうえ、修理品と一緒にご返送ください。

作成者

会社名		担当者		記入日	
TEL		FAX		E-MAIL	
住所					

ご依頼元 (☐ 作成者と同じ)

会社名		担当者			
TEL		FAX		E-MAIL	
住所					

ご返却先 (☐ 作成者と同じ ☐ ご依頼元と同じ)

会社名		担当者			
TEL		FAX		E-MAIL	
住所					

修理依頼品情報

対象機種名		製造番号	
返却リスト	☐ ケーブル () 本 ☐ ACアダプタ () 個 ☐ CD () 本 ☐ リーダライタ () 台 ☐ アンテナ () 本 ☐ その他 ()		
不具合発生頻度	☐ いつも ☐ 時々 ☐ 一定時間経過後 ☐ その他 ()		
平均使用時間 (時間/週)	☐ 20以下 ☐ 21～40 ☐ 41～60 ☐ 60以上 ☐ その他 ()		
症状とご要望	トラブルシューティングの結果		

- 不具合が特定の機器との組み合わせ(アンテナ+リーダライタ等)で発生する場合は、可能な限り、その組み合わせ一式をご返却ください。
- 修理依頼品は検査の時点で初期化を行いますので、修理完了品返却時には初期化状態での返却となります。
- 製品の保証期間は納入後1年となります。ただし、保証期間内であっても下記の場合は有償となります。
 - 製造番号の確認できないもの
 - 取扱説明書等に記載された使用方法および注意事項に反するお取り扱いによる障害
 - 故意または重大な過失による障害
 - お客さまの作成されたソフトウェアおよびシステムに起因する障害
 - 消耗品交換(ケーブル等)
- 修理品の保証期間は納入後6ヶ月となります。ただし、修理個所以外の個所の故障については保証外となります。

変更履歴

Ver No	日付	内容
1.00	2016/9/14	新規作成
1.01	2017/2/17	4.1 設置 設置環境による注意事項 追記 6.3 EEPROM 設定一覧 各種設定 2 アンテナ機能 追記
1.02	2018/4/13	5.1 動作モード EAS モード未サポート追記 6.1 製品仕様 接続可能アンテナ TR3-LA7412 追記 6.2.1 AC アダプタ 注意事項 追記 6.3 EEPROM 設定一覧 EAS モード 未サポート追記 各種設定 1 リーダライタの ID 説明追記
1.03	2020/12/11	4.1.3 EEPROM 設定を変更する（複数台を近接する場合）追記 6.1 製品仕様 接続可能アンテナ TR3-LA1818、TR3-WA103 追記

タカヤ株式会社 事業開発本部 RF 事業部
[URL] <https://www.takaya.co.jp/>
[Mail] rfid@takaya.co.jp

仕様については、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。